令和７年度

第１学年　シラバス

滋賀県立米原高等学校

目次

教　科	科　目	ページ
国　語	現代の国語	1
	言語文化	4
地歴公民	歴史総合	7
	公共	10
数　学	数学Ⅰ（普通科普通類型）	15
	数学Ⅰ（普通科英語コース）	19
	数学Ⅱ	23
	数学A	26
理　科	化学基礎	29
	生物基礎	32
保健体育	体育	34
	保健	38
芸　術	音楽Ⅰ	40
	美術Ⅰ	42
	書道Ⅰ	44
外国語	英語コミュニケーションⅠ	46
	論理・表現Ⅰ	50
	実践コミュニケーションⅠ	52
家　庭	家庭基礎	54
理　数	理数数学Ⅰ－α	59
	理数数学Ⅰ－β	64
	理数数学Ⅱ－α	67
	理数数学Ⅱ－β	69
	理数物理	71
	理数生物	74

令和7年度　年間指導計画　　滋賀県立米原高等学校

<table>
<tr><td rowspan="2">科目名</td><td rowspan="2" colspan="3">現代の国語</td><td>学年</td><td>類型・コース</td><td>単位数</td></tr>
<tr><td>1年</td><td>全員</td><td>2単位</td></tr>
<tr><td>学習の目標</td><td colspan="6">言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。</td></tr>
<tr><td>使用教材</td><td colspan="6">教科書:『現代の国語』(数研出版)
副教材:『プレミアムカラー国語便覧　デジタル副教材』(数研出版)
『字義で覚える常用漢字』(浜島書店)</td></tr>
<tr><td rowspan="5">評価</td><td>評価法</td><td colspan="5">定期考査、小テスト、課題考査、提出物で評価します。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">評価観点の趣旨</td><td>a</td><td>知識・技能</td><td colspan="3">実社会において必要な国語の知識や語彙、技能を身につけている。</td></tr>
<tr><td>b</td><td>思考・判断・表現</td><td colspan="3">「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。</td></tr>
<tr><td>c</td><td>主体的に学習に取り組む態度</td><td colspan="3">言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。</td></tr>
<tr><td colspan="6">上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, C の 3 段階)及び評定(1～5の 5 段階)にまとめます。</td></tr>
</table>

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1学期	4	言語活動 ＊聞くトレーニングと話すトレーニング ・「情報の聞き取り方」「説得力のある話し方」 【話すこと・聞くこと 3】 ＊「読む」ことと「書く」ことについて考える ・「書けない日々」 【読むこと 3】	＊目的に応じて情報を聞き取る方法を理解する。 ＊聞き手に自分の主張を明確に伝えるためにはどうすればよいかを考える。 ＊言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解することができる。	中間考査 発問評価	中間考査 発問評価	振り返りシート
	5	＊評論の読み方を学ぶ。文化について考える ・「水の東西」 【読むこと3】 【話すこと・聞くこと2】 【書くこと3】	＊東西の対比関係を用いながら、日本の文化に見られる特徴について論じる叙述の方法を把握する。 ＊東西の文化を比較して述べた文章を読み、自分の意見や考えを論述する。			

	中間考査			期末考査 発問評価	期末考査 発問評価	プリント
	6	＊文脈の理解をはかる。文章の組み立て方について学ぶ ・『「わらしべ長者」の経済学』 【話すこと・聞くこと2】 【読むこと　2】 ＊実社会について考えてみる ・「ポスト・プライバシー」【読むこと2】 【書くこと2】	＊文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解することができる。 ＊筆者の主張に対する自分の考えを文章にまとめ、意見交換をする。 ＊文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握することができる。 ＊筆者の主張に対する自分の考えを、実社会の状況を踏まえて文章にまとめる。			
	7	＊対比を意識した読み ・「政治的思考」 【話すこと・聞くこと2】 【読むこと　2】	＊実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 ＊特定の言葉について、二つの文章を関連づけて説明する。			
	期末考査					
2学期	9	＊具体と抽象について考えてみる ・「ものとことば」 【読むこと2】 【書くこと2】 ＊筆者の論を踏まえて自分の意見を持つ ・「動物園というメディア」 【読むこと2】 【書くこと2】	＊具体と抽象の関係を整理して論理構成を把握し、筆者の主張する言語の性質を理解する。 ＊調べたことを整理して、説明資料にまとめる。 ＊主張と論拠など情報と情報との関係について理解することができる。 ＊文章内容を踏まえて自分で問題を提起し、表現を工夫して文章を書く。	中間考査 発問評価 小テスト	中間考査 発問評価 プリント	プリント
	10	＊筆者の論を踏まえて自分の意見を持つ ・「科学コミュニケーション」 【読むこと2】 【書くこと2】 ・「時を編む人間」 【読むこと2】 【書くこと2】	＊主張と論拠など情報と情報との関係について理解することができる。 ＊筆者の考えに対する自分の意見を、構成を工夫して文章にまとめる。 ＊文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握することができる。 ＊特定のテーマについての本を読み感想文を書いた上で、その内容を発表する。	期末考査 発問評価 小テスト	期末考査 発問評価 プリント	プリント
	中間考査					

	11	＊文章の構造を理解する ・「浪費を妨げる社会」 【読むこと2】 【書くこと3】 ＊文章中の効果的な表現に注目する ・「他者を理解するということ」 【話すこと・聞くこと3】 【読むこと　2】	＊実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 ＊筆者が論じる問題について自分に引きつけて考察し、その内容を説明する。 ＊主張と論拠など情報と情報との関係について理解することができる。 ＊文章中の表現について、文章の論理の展開を捉えて説明する。			
	12	＊文章の種類を踏まえ、内容や構成を的確に捉えて、的確に要旨や要点をまとめる。 ・「感情暴走社会の由来」 【読むこと2】 【書くこと2】	＊要約は読む・書くの両方にまたがる言語活動である。文章の各段落において筆者の主張を見極め、主張と例示とを分けて、まとめにつなげる活動を通じて、豊かな読解力・表現力を身につけることができる。			
	期末考査					
3学期	1	＊具体例に注目して読む。 ・「動的平衡の回復」 【読むこと2】 【書くこと2】	＊個別の情報と一般化された情報との関係について理解することができる。 ＊文章中の表現の具体例を探し、その内容を文章にまとめる。	学年末考査 発問評価	学年末考査 発問評価 プリント	プリント
	2	＊与えられたテーマを引用しながら意見をまとめる ・「無痛化する社会のゆくえ」 【読むこと3】 【書くこと3】	＊引用の仕方や出典の示し方、それらの必要性について理解を深め使うことができる。 ＊与えられたテーマについて、二つの文章をもとに考察し、適切に引用しながら自分の意見を文章にまとめる。	意見文原稿	意見文原稿	意見文原稿
	学年末考査					
	3	＊様々な用途に合わせた表現の工夫を学ぶ ・「目的に合わせて表現を工夫する」 【話すこと・聞くこと2】【書くこと2】	話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使うことができる。			

担当者からのメッセージ（学習方法など）
高校での現代の国語では、様々な評論や文章を読み、現代の私たちの社会について考えます。身の回りの様々な問題に関心を持ち、普段から新聞などを読んでおくことが大切です。また自分自身の意見や考え方を表現するために、語彙力の向上や適切な文法、表現技法などの習得を心がけましょう。授業以外に漢字の問題集を使って、何度も書く練習をしましょう。

令和7年度　年間指導計画　　滋賀県立米原高等学校

<table>
<tr><td rowspan="2">科目名</td><td rowspan="2">言語文化</td><td>学年</td><td>類型・コース</td><td>単位数</td></tr>
<tr><td>1年</td><td>全員</td><td>3</td></tr>
<tr><td>学習の目標</td><td colspan="4">言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</td></tr>
<tr><td>使用教材</td><td colspan="4">教科書:『言語文化』(数研出版)
副教材:『古典常識も学べる 新明説総合古典文法』(尚文出版)
『重要な句法と語彙を学ぶ 精選漢文』(尚文出版)
『Look@古文単語337 改訂版』(啓隆社)
『新明説総合古典文法 基本練習ノート』(尚文出版)
『新プレミアムカラー国語便覧 デジタル副教材』(数研出版)</td></tr>
<tr><td rowspan="5">評価</td><td>評価法</td><td colspan="3">定期考査・小テスト・課題提出・発問評価・グループまたはペアによる学習活動の成果等で評価します。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">評価観点の趣旨</td><td>a</td><td>知識・技能</td><td>生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。</td></tr>
<tr><td>b</td><td>思考・判断・表現</td><td>「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。</td></tr>
<tr><td>c</td><td>主体的に学習に取り組む態度</td><td>言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持とうとしている。</td></tr>
<tr><td colspan="4">上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)及び評定(1～5の5段階)にまとめます。</td></tr>
</table>

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1学期	4	＊古文に親しむ 児のそら寝 【読むこと4】 【書くこと4】	＊主として歴史的仮名遣いや古今異義語について、文語のきまりを理解する。 ＊古典の文章に慣れるとともに、現代に通じる話のおもしろさや人間描写の巧みさを知る。 ＊説話という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 ＊積極的に説話を読み味わい、互いに話のおもしろさを伝え合おうとしている。	中間考査	発問評価 中間考査	グループワーク 発表 課題 ノート

	5	＊漢文の訓読のきまり① 入門一 入門二 【読むこと5】 【書くこと5】	＊漢文を訓読するための基礎知識として、返り点の種類と使い方・助字のはたらきと意味・再読文字の種類と読み方等を習得する。 ＊故事成語や格言に多く触れることにより、語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ＊我が国の文化と外国の文化との関係について理解する。 ＊訓読のきまりを理解する。 ＊日常的に使う故事成語や格言の量を積極的に増やし、漢文が我が国の言語文化と不可分の関係にあることを理解しようとしている。	中間考査 課題	発問評価 中間考査	グループワーク 課題 ノート
	中間考査			期末考査	発問評価 期末考査	課題
	6	＊漢文の訓読のきまり② ＊故事成語の成り立ちを知る 漁父之利 狐借虎威　蛇足 【読むこと6】 【書くこと7】	＊訓読のきまりを理解する。 ＊故事成語の由来となった話を読み、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解する。 ＊作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ＊作品の歴史的・文化的背景を理解する。			
	7	＊故事成語の用例を探そう 【読むこと3】 【書くこと4】	＊故事成語の由来を調べ、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解する。 ＊故事成語の由来と意味を積極的に調べ、調べた内容を工夫してまとめようとしている。			
	期末考査					
2学期	9	＊助動詞について学ぶ① ＊和歌の修辞を学ぶ① ＊物語を楽しむ 伊勢物語 「芥川」 「筒井筒」 【読むこと6】 【書くこと6】	＊助動詞の意味・活用・接続について理解する。 ＊話の中で和歌が果たしている役割を押さえ、歌物語の特徴と読み解き方を理解する。 ＊歌物語では感動の中心が歌にあることを理解し、内容や展開を的確に捉える。 ＊「筒井筒」は『大和物語』の同話と読み比べ、解釈を深める。 ＊「歴史の窓」と「筒井筒」の課題を踏まえて、作品の歴史的・文化的背景を理解する。 ＊学習課題に沿って異なるテクストと読み比べ、わかったことを積極的に伝え合おうとしている。	中間考査	発問評価 中間考査	課題 ノート グループワーク 発表
	10	＊漢文句形を学ぶ ＊歴史的背景や思想を学ぶ 鶏口牛後 【読むこと6】 【書くこと5】	＊「鶏口牛後」の由来を知り、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解する。 ＊史伝の舞台となる時代背景を知るとともに、作中に描かれた蘇秦の考えや人物像を読み取る。 ＊史伝という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。			
	中間考査					
	11	＊助動詞について学ぶ② ＊平安時代の日記文学について学ぶ 土佐日記 【読むこと3】 【書くこと3】 ＊古典からの翻案小説を楽しむ 羅生門 今昔物語集 【読むこと4】 【書くこと4】	＊助動詞の意味・活用・接続に習熟し、助詞についても理解を深める。 ＊我が国最初の日記文学を読んで、記録としての日記とは異なる表現方法と随筆意図を読み解く。 ＊女性に仮託して書かれた日記という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 ＊「門出」「亡児」では「活動の手引き」に応じて調査し、成果を発表する。 ＊翻案小説とその典拠を読み比べ、両者の相違点を確かめる。 ＊典拠との相違が『羅生門』にどのような効果をもたらしているか考え、積極的に話し合おうとしている。 ＊図書館やインターネットを利用してどのような翻案小説があるか調べ、新たな読書につなげている。	期末考査	発問評価 期末考査	課題

	12	＊唐詩の世界を味わう 漢詩のきまり 【読むこと4】 【書くこと3】	＊表現や技法(押韻や対句)に留意して漢詩を鑑賞し、古代中国の人々が自然や人事に向けた思いを読み取る。 ＊作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ＊作品の歴史的・文化的背景を理解する。 ＊漢詩を読み比べ、よまれた情景や心情を説明しようとしている。			
	期末考査					
3学期	1	＊和歌の修辞について学ぶ② 万葉集 古今和歌集 新古今和歌集 【読むこと4】 【書くこと3】	＊枕詞や序詞、掛詞・縁語・見立て、本歌取り・本説取り・体言止めなどの和歌の修辞について理解する。 ＊我が国の伝統文化の一つである和歌の鑑賞の方法を理解し、黎明期・発展期・成熟期の和歌の特色を捉える。 ＊和歌という文章の種類を踏まえて、情景や心情など、内容や展開を的確に捉える。 ＊作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ＊我が国の言語文化に特徴的な和歌の表現の技法とその効果について理解する。 ＊我が国の言語文化の特質や、外国の文化との関係について理解する。 ＊和歌の修辞技法を進んで理解し、学習の見通しをもって和歌文芸の特徴を捉えようとしている。	学年末考査 学年末考査	発問評価 学年末考査	課題 グループワーク
	2	＊短歌の世界に触れる 短歌 【読むこと3】 【書くこと2】 ＊現代小説に親しむ サラバ！ 【読むこと4】 【書くこと4】	＊我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 ＊作中人物の心情変化を場面ごとに整理し、人物たちの関係の深まりを理解する。 ＊小説のタイトルになった言葉が生まれた経緯をまとめ、作中人物たちにとっての意味を考え、発表する。 ＊人と人の交流において大切なこととは何か、自分の考えを説明しようとしている。			
	学年末考査					
	3	＊詩の世界に触れる Iwas born 【読むこと3】 【書くこと3】	＊散文詩に親しみ、「I was born」という言葉がどのようなイメージで捉えられているかを読み取る。 ＊「僕」「父」の心情など、作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ＊「僕」の理解したイメージを自分事として共有し、考えたことを積極的に話し合おうとしている。			

担当者からのメッセージ(学習方法など)
主として古典分野を取り扱う言語文化の学習は、着実な努力の積み重ねが必要です。特に用言や助動詞・助詞、敬語など、古典文法や古文単語の習得は、「身に付ける」という意欲と学習態度で臨んでください。それがある程度身に付いてこそ、古文で書かれた文章や物語を味わうことができます。漢文も同様で、文の構造、返読・再読文字、基本的な助字や句形など、最低限知っておかねばならない事項は確実に習得しておきましょう。習得する方法としては、「身に付ける」という意欲のもとで、何度も反復演習することが最も有効です。意欲の伴わない学習は、学んだことをすぐに忘れてしまう、最も効率の悪い学習方法です。また、言語文化においては、現代文・古文・漢文の3分野にわたって、韻文(短歌・和歌・漢詩)も学習します。それぞれの表現技法やきまりを学び、選び抜かれた1つ1つの文字や言葉の中に込められた作者の想いを読み解くことは楽しい作業となるのではないでしょうか。古典分野の学習においても、昔の人が書いた文章の中に、現代を生きる我々に共通する思いや考え方、今も通用している言葉などを見出すことは意義深い学習となるはずです。みなさんの取り組みに期待しています。

令和7年度　年間指導計画　　滋賀県立米原高等学校

科目名	歴史総合	学年	類型・コース	単位数
		1年	全員	2単位
学習の目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追求したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会において、広い視野に立ち主体的に生きる資質を育成する。			
使用教材	教科書:『明解　歴史総合』(帝国書院) 副教材:『明解　歴史総合図説シンフォニア』(帝国書院)『明解歴史総合ノート』(帝国書院)			
評価	評価法	定期考査、小テスト、課題(調べ学習等)、グループ討議、ノート、振り返りシートで評価します。		
	評価観点の趣旨	a　知識・技能	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、諸資料などの様々な情報を利用して、世界とその中の日本を相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる背景を理解している。	
		b　思考・判断・表現	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを相互の関連やつながりに着目して、多面的・多角的に考察したり、課題解決を視野に入れて構想したりできている。	
		c　主体的に学習に取り組む態度	近現代の歴史に関わる諸事象について、自身との関わりを踏まえて学習を振り返り、次の学習へのつながりを見いだそうとしている。	
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A，B，Cの3段階)および評定(1～5の5段階)にまとめます。			

学期	月	時数	学習項目 単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法 a	 b	 c
1学期	4	1	1章 歴史と私たち	＊身の回りの事象と世界の歴史がつながっていることを理解し、そのことについて自分の考えを表現している。	中間考査 小テスト	中間考査 グループワーク	振り返りシート ノート
		1	2章 歴史の特質と資料	＊絵画・史料・数値など歴史における史資料の重要性や、事実と解釈を分けて読み取るなどの正しい読み解き方について理解している。			
		2	序章 近代化への問い	＊近代化に関わる史資料を読み解く技能を身に付け、近代化に関する自己の問いを表現している。			
	5	2 2	2部 1章 江戸時代の日本と結び付く世界	＊18世紀のアジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易と、日本への影響について理解したうえで、各地域の変容について考察し、自分の言葉で表現している。			
	中間考査						

1学期	5	6	2章 欧米諸国における近代化	＊市民社会と国民国家の形成、資本主義社会と国際分業体制の確立の経緯を理解し、諸改革の意義と現代社会との関わりを考察し、自分の言葉で表現している。	期末考査 小テスト	期末考査 グループワーク	振り返りシート ノート
	6	6	3章 近代化の進展と国民国家形成	＊国民国家の展開と帝国主義による世界分割や移民の状況を理解し、帝国主義が人類に与えた変化について考察し、自分の言葉で表現している。			
	期末考査						
	7	5	4章 アジア諸国の動揺と日本の開国	＊欧米諸国の進出によるアジア諸国の変容について理解し、「西洋の衝撃」の歴史的意義について考察し、自分の言葉で表現している。	中間考査 小テスト	中間考査 グループワーク	振り返りシート ノート 課題
2学期	8 9 10	2 5	5章 近代化が進む日本と東アジア	＊明治維新とその後の日本の変化やアジア諸国の変容につて理解し、明治維新の歴史的な意義について考察し、自分の言葉で表現している。			
		1	3部 序章 国際秩序の変化や大衆化への問い	＊国際秩序の変化や大衆化に関わる史資料を読み解く技能を身に付けている。 ＊資料から得た情報と、中学校までの学習で得た知識を統合し、国際秩序の変化や大衆化に関する自己の疑問を表現している。			
		2 3	1章 第一次世界大戦と日本の対応	＊国際関係の視点を軸に、第一次世界大戦勃発から終戦までの経緯と、参戦各国の社会の変化について理解し、人々がどのような目的で戦争に協力したかを考察し、自分の言葉で表現している。			
	中間考査						
	10	6	2章 国際協調と大衆社会の広がり	＊ヴェルサイユ体制によって形成された国際秩序と、国際社会や各国に生じた政治・社会・文化の変化を理解し、新しい国際秩序と大衆社会の特徴について考察し、自分の言葉で表現している。	期末考査 小テスト	期末考査 グループワーク	振り返りシート ノート
	11	7	3章 日本の行方と第二次世界大戦	＊世界恐慌から第二次世界大戦の終戦に至るまでの経緯について、大衆とマスメディアの関わりに着目しながら理解し、ドイツや日本で大衆がなぜ戦争に協力していったのか考察し、自分の言葉で表現している。			
	期末考査						

3学期	12 1	4 2	4章 再出発する世界と日本	＊冷戦及び冷戦構造の形成と、国連を中心とする平和へ向けた新たな国際秩序について、日本と関連付けながら理解し、戦争の経験が人々に何をもたらしたかを考察し、自分の言葉で表現している。	学年末考査 小テスト	学年末考査 グループワーク	振り返りシート ノート
		1	4部 序章 グローバル化への問い	＊グローバル化に関わる史資料を読み解く技能を身に付け、資料から得た情報と中学までの学習で得た知識を総合し、グローバル化に関して自己の問いを表現している。			
		4	1章 冷戦で揺れる世界と日本	＊55年体制の形成から高度経済成長に至る日本の動きを、冷戦下の国際情勢を踏まえながらその中に位置づけて理解し、冷戦下の日本と世界の動向につて考察し、自分の言葉で表現している。			
	2	4	2章 多極化する世界	＊1960年代から80年代を中心に、冷戦下における各国の選択と経済成長について比較して理解し、自分の言葉で表現している。			
	学年末考査						
	3	3	3章 グローバル化の中の世界と日本	＊冷戦終結の過程とグローバル化の特質について理解し、その特質や問題点を自分の言葉で表現している。			
		2	まとめ 現代的な諸課題の形成と展望	＊現代の諸課題のなかから、自身が興味あることを一つ選びだし、歴史上の出来事とかさねながら今後の展望と解決策を考え、自分の言葉で表現している。			

担当者からのメッセージ(学習方法など)
歴史を学ぶ上で大切なことは、「5W1H」(When/Where/Who/What/Why/How)といわれます。人物や場所などを暗記することは大前提ですが、特に大切にしてほしいことは、「なぜ？」「どうして？」という疑問です。日々の授業の中で疑問を持つことを心がけ、長い歴史の中で世の中がどのように変化してきたかを、学んでいきましょう。

令和7年度　年間指導計画　　滋賀県立米原高等学校

<table>
<tr><td rowspan="2">科目名</td><td rowspan="2" colspan="3">公共</td><td>学年</td><td>類型・コース</td><td>単位数</td></tr>
<tr><td>1年</td><td>全員</td><td>2単位</td></tr>
<tr><td>学習の目標</td><td colspan="6">人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ，現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して，広い視野に立ち，グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</td></tr>
<tr><td>使用教材</td><td colspan="6">教科書:『高等学校　公共』(第一学習社)
副教材:『ライブ！　公共 2025』(帝国書院)、『公共ノート』(第一学習社)</td></tr>
<tr><td rowspan="5">評価</td><td>評価法</td><td colspan="5">定期考査、提出課題、ノート提出で評価します。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">評価観点の趣旨</td><td>a</td><td>知識・技能</td><td colspan="3">現代の諸課題を捉え考察し，選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに，諸資料から，倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。</td></tr>
<tr><td>b</td><td>思考・判断・表現</td><td colspan="3">現実社会の諸課題の解決に向けて，選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して，事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり，合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論したりしている。</td></tr>
<tr><td>c</td><td>主体的に学習に取り組む態度</td><td colspan="3">よりよい社会の実現を視野に，国家及び社会の担い手として，現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。</td></tr>
<tr><td colspan="5">上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A，B，Cの３段階)及び評定(1～5の５段階)にまとめます。</td></tr>
</table>

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1学期	4	第1編 第1章　Ⅰ 社会に生きる私たち 個人の尊厳と自主・自律 多様性と共通性 キャリア形成と自己実現 Ⅱ 伝統や文化とのかかわり 第2章　Ⅰ 人間と社会のあり方についての見方・考え方 実社会の事例から考える～環境保護	＊人生の中で青年期はどのような意味をもつのか，自らの体験などを振り返ることを通して，自らを成長させる人間としてのあり方生き方について理解している。 ＊公共的な空間と人間との関わり，個人の尊厳と自主・自律，人間と社会の多様性と共通性などに着目して考えている。 ＊公共的な空間をつくる私たちについて，現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 ＊倫理的価値の判断において，行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方と，行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などを活用し，自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け，思考実験などを通して，多面的・多角的に考察，表現している。 ＊人間としてのあり方生き方に関わる諸資料から，より	中間 考査	中間 考査 課題 中間 考査 課題	ノート

		実社会の事例から考える～生命倫理	よく生きる行為者として活動するために必要な情報を収集し，読み取る技能を身に付けている。 ＊公共的な空間でどのように生きるかについて，先哲の生き方などを参考に，人間としてのあり方生き方について，現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	中間考査		ノート
	5	第3章　Ⅰ 人間の尊厳と平等 個人の尊重 民主政治の基本的原理	＊人間の尊厳と平等，個人の尊重，民主主義，法の支配，自由･権利と責任･義務など，公共的な空間における基本的原理について理解している。 ＊公共的な空間における基本的原理について，思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して，個人と社会との関わりにおいて多面的･多角的に考察し，表現している。	中間･期末考査	中間考査課題	
	中間考査			期末考査		
		法の支配 自由･権利と責任･義務 Ⅱ 世界のおもな政治体制	＊個人と国家･社会との関係から，世界のおもな政治体制について，自己のあり方生き方と民主主義がどのように関係しているか理解している。 ＊公共的な空間における基本的原理と日本国憲法の基本的原則を関連させながら，現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。			ノート
	6	日本国憲法に生きる基本的原理 第2編 第1章 主題1 私たちの生活と法 法と基本的人権 自由･平等と法･規範 法をよりよく変えていくために 主題2 さまざまな契約と法 消費者の権利と責任	＊法や規範の意義及び役割に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 ＊基本的人権が保障されるにいたった経緯を，現実社会の諸課題に関わる諸資料から，必要な情報を適切かつ効果的に収集し，読み取り，まとめる技能を身に付けている。 ＊法をよりよく変えていくために，自由権の意味や，社会権が私たちの生活をどのように変えたのか，新しい人権とは何かをさまざまな立場に立って考察している。 ＊法や規範の意義と役割について，現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 ＊成年年齢が 18 歳以上となったことに対し，成年年齢の意味と成年の責任について理解している。 ＊契約と消費者の権利･責任に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 ＊自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し，その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを，論拠をもって表現している。 ＊契約と消費者の権利･責任について，現代の諸課題を具体的な例をもとに，主体的に解決しようとしている。	期末考査 期末考査	期末考査課題 期末考査課題	ノート ノート
	7					
	期末考査					
		主題3 裁判所と	＊国民の権利を守り，社会秩序を維持するために，公正な裁判が保障され，法律家が重要な役割を果たしていることを理解している。	中間考査		

		人権保障	＊自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し，合意形成や社会参画を視野に入れながら，その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを，論拠をもって表現している。 ＊司法参加の意義について，現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。		中間 考査 課題	ノート
2学期	9	第2章 主題4 選挙の意義と課題 政治参加と世論形成 国会と立法 内閣と行政の民主化 地方自治と住民の福祉 主題5 国家と国際法 国境と領土問題 国際連合の役割と課題	＊選挙のしくみ，政党の役割，世論の形成について，さまざまな情報手段を活用して，考察，構想し，表現している。 ＊国会の地位と構成・権限，議院内閣制のしくみ，内閣総理大臣の権限，行政の民主化について，理解している。 ＊地方自治には，直接民主制の考え方に基づくしくみが，国政よりも多く取り入れられていることを理解しつつ，地方自治の課題についても考察，構想し，表現している。 ＊政治参加と公正な世論形成について，現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 ＊国際社会と国家主権について，国境や領土をめぐる諸課題を主体的に解決するために，必要な情報を収集し，考察，構想している。 ＊現実社会の諸課題に関わる諸資料から，自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し，読み取り，まとめる技能を身に付けている。 ＊国際社会と国家主権について，現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	中間 考査 中間 考査 中間 考査	中間 考査 課題 中間 考査 課題	 ノート ノート
	10	主題6 平和主義と安全保障 核兵器の廃絶と国際平和	＊日本国憲法の平和主義について理解を深めることができるように，現実社会の諸課題に関わる諸資料から，必要な情報を適切かつ効果的に収集し，読み取り，まとめる技能を身に付けている。 ＊日本国憲法の平和主義をふまえ，幸福，正義，公正などに着目して，多面的・多角的に考察し，表現している。 ＊日本の安全保障と防衛について，国連憲章や日米安全保障条約，平和主義を掲げる日本国憲法の下，現代の諸課題の解決に向けて，主体的に取り組もうとしている。	中間 考査	中間 考査 課題	ノート
	中間考査					
		主題7 今日の国際社会 人種・民族問題と地域紛争 国際社会における日本の役割 第3章 主題8 私たちと経済 労働者の権利と労働問題	＊人種・民族問題と地域紛争の実態，難民問題にする資料を，さまざまな情報手段を用いて収集し，課題の解決に向けて，国際社会では何がおこなわれているか，理解している。 ＊持続可能な開発（SDGs）にふれながら，国際社会の安定について，国民レベル，国家レベル，国際レベルで何ができるかを，さまざまな観点から考察し，論拠をもって表現している。 ＊国際社会の変化と日本の役割について，現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 ＊企業・家計・政府の三つの経済主体を考え，経済的な主体となる私たちは，どのように経済活動に参加しているのか，理解している。 ＊近年の雇用事情の変化とさまざまな労働問題について，具体例をあげて多角的に考察，構想し，論拠をもって表現している。	期末 考査 期末 考査	期末 考査 課題 期末 考査 課題	 ノート

			＊雇用と労働問題について，現代の諸課題を主体的に解決し，自分の将来のあり方について考えようとしている。			ノート
	11	主題9 技術革新の進展と産業構造の変化 企業の活動 農林水産業の現状とこれから 主題 10 市場経済と経済運営 市場経済のしくみ 経済発展と環境保全 経済成長と国民福祉	＊技術革新の進展による生活の変化，産業構造の変化，経済のサービス化･ソフト化について，身近な問題と関連させて考察，構想し，論拠をもって表現している。 ＊企業の役割や種類から，株式会社のしくみや企業の社会的責任について理解している。 ＊社会の変化と職業観について，現代の諸課題を主体的に解決し，自分の将来のあり方について考えようとしている。 ＊経済の基本的なしくみと資本主義経済，社会主義経済の特徴を理解している。 ＊価格の変化が，消費者と企業の行動にどのように影響を及ぼしているか，さまざまな観点から多面的･多角的に考察，構想し，論拠をもって表現している。 ＊市場経済の機能と限界に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 ＊経済成長が生活に与える影響を，具体的事例をあげて考察している。 ＊市場経済の機能と限界について，現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	期末考査 期末考査 期末考査 期末考査	期末考査課題 期末考査課題 期末考査課題	ノート ノート
	12					
		期末考査				
		主題 11 金融の意義や役割	＊資金の流れ，金融機関の役割，日本銀行の役割について理解している。 ＊自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し，合意形成や社会参画を視野に入れながら，その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを，論拠をもって表現している。 ＊金融のはたらきについて，現代の諸課題を主体的に取り組もうとしている。	学年末考査	学年末考査課題	ノート
3学期	1	主題 12 政府の経済的役割と租税の意義 社会保障と国民福祉 主題 13 国際分業と国際貿易体制 国際収支と為替相場 経済のグローバル化と日本	＊財政の役割と社会保障に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 ＊財政政策の意義，日本の財政の課題を理解し，財政のしくみ，租税の意義と課題について，具体的に事例をあげて考察，構想し，主体的に考えている。 ＊財政の役割と社会保障について，現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 ＊貿易の意義，円高･円安が生じる理由，貿易摩擦などについて，考察，構想し，表現している。 ＊国際社会における貧困や格差が解消されていない現状について，国際機構の役割や政府開発援助の意義が大きいことを理解している。 ＊資源の有限性を理解しつつ，新エネルギーなどの開発が期待されていることを理解している。 ＊国際協力のあり方，国際協調の重要性から，日本の役割について自分自身の問題として，主体的に解決しようとしている。	学年末考査 学年末考査 学年末考査	学年末考査課題	ノート ノート
	2	地域的経済統合の動き 国際社会における貧困や格差				

		地球環境問題 資源・エネルギー問題 国際社会のこれから		課題	課題	課題
	学年末考査					
	3	第３編　持続可能な社会づくりの主体となる私たち ①地球環境問題～排出量取引を考える ②資源・エネルギー問題～ベストミックスを考える ③生命倫理～ゲノム編集を考える ④情報～インターネットによる投票を考える ⑤国際社会の課題～フェアトレードを考える	＊地域の創造，よりよい国家・社会の構築及び平和で安定した国際社会の形成へ主体的に参画し，共に生きる社会を築くという観点から課題を見いだしている。 ＊課題の解決に向けて事実を基に協働して考察，構想し，妥当性や効果，実現可能性などを指標にして，論拠を基に自分の考えを説明，論述している。 ＊現代の諸課題を，「第 1 編　公共の扉」で学んだことを基に，幸福，正義，公正や公共的な空間における基本的原理を用いて，考察，構想し，論拠をもって表現している。 ＊現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。			

担当者からのメッセージ（学習方法など）
基礎的な知識は、ワークを用いて随時押さえていきましょう。授業やワークで身につけた知識を用いて、ある事例に関する問題点や解決策を考えられるようになる事が望ましいです。このような問題解決力を身につけるためには普段の授業に積極的に参加することはもちろんですが、社会に興味を持つことが重要です。身近に起こっている様々な事象に目を向け、まずはそれについて知りましょう。そして、なぜこんなことが起こるのか、疑問を持ってみましょう。疑問に思ったら誰かに聞いたり調べたりしましょう。そのうち、解決策が見えてくるかもしれません。公共という授業を用いながら、問題解決力を身につけ、実生活にいかすようにしましょう。

<table>
<tr><td rowspan="2">科目名</td><td rowspan="2" colspan="3">数学Ⅰ</td><td>学年</td><td>類型・コース</td><td>単位数</td></tr>
<tr><td>1年</td><td>普通科普通類型</td><td>3単位</td></tr>
<tr><td>学習の
目標</td><td colspan="6">数と式，図形と計量，2 次関数及びデータの分析について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。</td></tr>
<tr><td>使用教材</td><td colspan="6">教科書:『新編 数学Ⅰ』（数研出版）
副教材:『新課程 チャート式 基礎からの 数学Ⅰ＋A』（数研出版）
『新課程 4プロセス数学Ⅰ＋A』（数研出版）</td></tr>
<tr><td rowspan="5">評価</td><td>評価法</td><td colspan="5">定期考査、小テスト、課題考査、ノート、プリント、課題（宿題）で評価します。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">評価観点の趣旨</td><td>a</td><td>知識・技能</td><td colspan="3">●数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。
●事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。</td></tr>
<tr><td>b</td><td>思考・判断・表現</td><td colspan="3">●数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。</td></tr>
<tr><td>c</td><td>主体的に学習に取り組む態度</td><td colspan="3">●数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。
●問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしたりしている。</td></tr>
<tr><td colspan="5">上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価（A，B，C の 3 段階）及び評定（1～5の 5 段階）にまとめます。</td></tr>
</table>

期	月	学習項目・単元	学習内容 （言語材料・単元の目標）	評価方法		
				a	b	c
1学期	4	第1章 数と式 第1節 式の計算	整式の加法と減法 ＊ある文字に着目して整式の同類項をまとめ，整理することができる。 ＊整式の加法，減法の計算ができる。 整式の乗法 ＊展開の公式を利用することができる。 ＊式の特徴に着目して変形したり，式を１つの文字におき換えたりすることによって，式の計算を簡略化することができる。 因数分解 ＊因数分解の公式を利用することができる。	中間考査 小テスト	中間考査 課題 ノート	ノート プリント
	5	第2節 実 数	＊因数分解を行うのに，文字のおき換えを利用することができる。 ＊整式を適切な形に整理することによって因数分解や計算ができる。 実 数 ＊有理数と無理数の違い，および実数について理解している。 ＊絶対値の意味と記号表示を理解している。 根号を含む式の計算 ＊平方根の意味・性質を理解している。 ＊根号を含む式の加法，減法，乗法の計算ができる。また，分母の有理化ができる。			

	中間考査			期末考査 テスト	期末考査 課題 ノート	ノート プリント
	5	第3節 1次不等式 課題学習	不等式の性質 ＊不等式の性質を理解している。 1次不等式 ＊1次不等式を解くことができる。 ＊連立不等式の解を，数直線を用いて表示できる。 ＊連立不等式の意味を理解し，連立1次不等式を解くことができる。 絶対値を含む方程式・不等式 ＊絶対値の意味から，絶対値を含む方程式，不等式を解くことができる。 ＊第1章で学んだ内容に関する課題について，主体的に学習し，数学のよさを認識する。			
	6	第2章 集合と命題 第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ	集 合 ＊集合の特徴によって，要素を列挙する方法と要素の満たす条件を示す方法を使い分けて，集合を表すことができる。 ＊空集合，共通部分，和集合，補集合について理解している。 命題と条件 ＊命題の真偽，反例の意味を理解している。 ＊必要条件，十分条件，必要十分条件，同値の定義や使い方を理解している。 ＊条件の否定，ド・モルガンの法則を理解しており，条件の否定が求められる。 命題と証明 ＊対偶，背理法を理解し，命題を証明するのにこれらを適切に用いることができる。 ＊間接証明法を理解し，命題を証明することができる。 関数とグラフ ＊与えられた条件から1次関数を決定することができる。 ＊1次関数のグラフがかけて，値域，関数の最大値，最小値が求められる。 2次関数のグラフ ＊平方完成をすることができる。 ＊平方完成を利用して，2次関数 $y=ax^2+bx+c$ のグラフの軸と頂点を調べ，グラフをかくことができる。 ＊放物線の平行移動を，頂点の移動に着目して考察することができる。グラフの対称移動の一般公式を活用して，対称移動後の放物線の方程式を求めることができる。			
	7	第2節 2次関数の値の変化	2次関数の最大・最小 ＊平方完成を用いて最大値，最小値を求めることができる。 ＊2次関数の定義域に制限がある場合に，最大値，最小値が求めることができる。 2次関数の決定 ＊2次関数の決定において，条件を処理するのに適した式の形を使うことができる。 ＊与えられた条件から2次関数を決定することができる。			
	期末考査					

2学期	9	第3節　2次方程式と2次不等式	2次方程式 ＊2次方程式の解の考察において，判別式$D = b^2 - 4ac$ の符号と実数解の関係を理解し，利用することができる。 ＊2次方程式が実数解や重解をもつための条件を式で示すことができる。 2次関数のグラフと x 軸の位置関係 ＊2次関数のグラフと x 軸の共有点の個数を求めることができる。 ＊2次関数のグラフと x 軸の共有点の個数や位置関係を，$D = b^2 - 4ac$ の符号から考察することができる。 2次不等式 ＊2次不等式、2次の連立不等式を解くことができる。 ＊式を解きやすい形に変形してから，2次不等式を解くことができる。	課題考査 中間考査 小テスト	課題考査 中間考査 課題 ノート	ノート プリント
		課題学習	＊第3章で学んだ内容に関する課題について，主体的に学習し，数学のよさを認識する。			
		第4章　図形と計量 第1節　三角比	三角比 ＊直角三角形において，正弦・余弦・正接が求められる。 ＊直角三角形の辺の長さを三角比で表す式を理解し，応用問題に利用できる。 三角比の相互関係 ＊三角比の相互関係を利用して，1つの値から残りの値が求められる。			
	10		三角比の拡張 ＊拡張された三角比を，座標平面に図示して考察することができる。 ＊座標を用いた三角比の定義を理解し，三角比の値からθを求めることができる。			
	中間考査					
	10	第2節　三角形への応用	正弦定理 ＊正弦定理の図形的意味を考察する。 ＊正弦定理を利用して，三角形の外接円の半径，辺の長さや角の大きさが求められる。 余弦定理 ＊余弦定理の図形的意味を考察する。 ＊余弦定理を利用して，三角形の辺の長さ，角の大きさが求められる。 正弦定理と余弦定理の応用 ＊余弦定理や正弦定理を用いて，三角形の残りの辺の長さや角の大きさを求めることができる。 ＊正弦定理を $a : b : c = \sin A : \sin B : \sin C$ として利用できる。	期末考査 ノート	期末考査 課題 ノート	ノート プリント
	11		三角形の面積 ＊三角比を用いた三角形の面積公式を理解している。 ＊三角形の面積を，決定条件である2辺とその間の角または3辺から求めることができる。 ＊3辺が与えられた三角形の内接円の半径を求めることができる。 空間図形への応用 ＊正弦定理，余弦定理を空間図形の計量に応用で			

		課題学習 第5章　データの分析	きる。 ＊測量や空間図形への応用では，適当な三角形に着目して考察できる。 ＊第4章で学んだ内容に関する課題について，主体的に学習し，数学のよさを認識する。 データの整理 ＊データを度数分布表に整理することができる。また，度数分布表をヒストグラムで表すことができる。 データの代表値 ＊平均値や中央値，最頻値の定義や意味を理解し，それらを求めることができる。			
	12	課題学習	データの散らばりと四分位数 ＊四分位範囲の定義やその意味を理解し，それを求め，データの散らばりを比較することができる。 ＊箱ひげ図をかき，データの分布を比較することができる。 分散と標準偏差 ＊分散，標準偏差の定義とその意味を理解し，それらに関する公式を用いて，分散，標準偏差を求めることができる。 データの相関 ＊相関係数の定義とその意味を理解し，定義に従ってそれを求めることができる。 ＊相関係数は散布図の特徴を数値化したものであること，数値化して扱うことのよさを理解している。 ＊第5章で学んだ内容に関する課題について，主体的に学習し，数学のよさを認識する。			
	期末考査					
3学期	1			課題考査	課題考査	
	2					
	学年末考査					
	3					

担当者からのメッセージ（学習方法など）
授業用ノート、4プロセスノートは分けてください。 毎日の復習が大切です。宿題と4プロセスの授業で習った問題を解きましょう。

令和7年度　年間指導計画　　滋賀県立米原高等学校

科目名	数学Ⅰ	学年	類型・コース	単位数
		1年	普通科英語コース	3単位
学習の目標	数と式，図形と計量，2 次関数及びデータの分析について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。			
使用教材	教科書:『新編 数学Ⅰ』（数研出版） 副教材:『新課程 チャート式 基礎からの 数学Ⅰ＋A』（数研出版） 『新課程 4プロセス数学Ⅰ＋A』（数研出版）			
評価	評価法	定期考査、小テスト、課題考査、ノート、プリント、課題（宿題）で評価します。		
	評価観点の趣旨 a 知識・技能	● 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ● 事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。		
	評価観点の趣旨 b 思考・判断・表現	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。		
	評価観点の趣旨 c 主体的に学習に取り組む態度	● 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 ● 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしたりしている。		
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価（A，B，C の 3 段階）及び評定（1～5の 5 段階）にまとめます。			

期	月	学習項目・単元	学習内容 （言語材料・単元の目標）	評価方法 a	評価方法 b	評価方法 c
1学期	4	第1章 数と式 第1節 式の計算	整式の加法と減法 ＊ある文字に着目して整式の同類項をまとめ，整理することができる。 ＊整式の加法，減法の計算ができる。 整式の乗法 ＊展開の公式を利用することができる。 ＊式の特徴に着目して変形したり，式を1つの文字におき換えたりすることによって，式の計算を簡略化することができる。 因数分解 ＊因数分解の公式を利用することができる。 ＊因数分解を行うのに，文字のおき換えを利用することができる。 ＊整式を適切な形に整理することによって因数分解や計算ができる。	中間考査 小テスト	中間考査 課題 ノート	ノート プリント
	5	第2節 実 数	実 数 ＊有理数と無理数の違い，および実数について理解している。 ＊絶対値の意味と記号表示を理解している。 根号を含む式の計算 ＊平方根の意味・性質を理解している。 ＊根号を含む式の加法，減法，乗法の計算ができる。また，分母の有理化ができる。			

	中間考査					
	5	第3節 1次不等式	不等式の性質 ＊不等式の性質を理解している。 1次不等式 ＊1次不等式を解くことができる。 ＊連立不等式の解を，数直線を用いて表示できる。 ＊連立不等式の意味を理解し，連立 1 次不等式を解くことができる。 絶対値を含む方程式・不等式 ＊絶対値の意味から，絶対値を含む方程式，不等式を解くことができる。	期末考査 小テスト	期末考査 課題 ノート	ノート プリント
		課題学習	＊第1章で学んだ内容に関する課題について，主体的に学習し，数学のよさを認識する。			
	6	第2章 集合と命題	集 合 ＊集合の特徴によって，要素を列挙する方法と要素の満たす条件を示す方法を使い分けて，集合を表すことができる。 ＊空集合，共通部分，和集合，補集合について理解している。 命題と条件 ＊命題の真偽，反例の意味を理解している。 ＊必要条件，十分条件，必要十分条件，同値の定義や使い方を理解している。 ＊条件の否定，ド・モルガンの法則を理解しており，条件の否定が求められる。 命題と証明 ＊対偶，背理法を理解し，命題を証明するのにこれらを適切に用いることができる。 ＊間接証明法を理解し，命題を証明することができる。			
	7	第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ	関数とグラフ ＊与えられた条件から1次関数を決定することができる。 ＊1 次関数のグラフがかけて，値域，関数の最大値，最小値が求められる。 2次関数のグラフ ＊平方完成をすることができる。 ＊平方完成を利用して，2次関数 $y = ax^2 + bx + c$ のグラフの軸と頂点を調べ，グラフをかくことができる。 ＊放物線の平行移動を，頂点の移動に着目して考察することができる。グラフの対称移動の一般公式を活用して，対称移動後の放物線の方程式を求めることができる。			
		第2節 2次関数の値の変化	2次関数の最大・最小 ＊平方完成し，最大値，最小値を求めることができる。 ＊2次関数の定義域に制限がある場合に，最大値，最小値が求めることができる。			
	期末考査					
2学期	9		2次関数の決定 ＊2次関数の決定において，条件を処理するのに適した式の形を使うことができる。 ＊与えられた条件から2次関数を決定することが	課題考査 中間考査	課題考査 中間考査	ノート

			できる。	小テスト	課題	プリント
		第3節　2次方程式と2次不等式	2次方程式 ＊2次方程式の解の考察において，判別式$D = b^2 - 4ac$ の符号と実数解の関係を理解し，利用することができる。 ＊2次方程式が実数解や重解をもつための条件を式で示すことができる。 2次関数のグラフと x 軸の位置関係 ＊2次関数のグラフと x 軸の共有点の個数を求めることができる。 ＊2次関数のグラフと x 軸の共有点の個数や位置関係を，$D = b^2 - 4ac$ の符号から考察することができる。 2次不等式 ＊2次不等式、2次の連立不等式を解くことができる。 ＊式を解きやすい形に変形してから，2次不等式を解くことができる。		ノート	
		課題学習	＊第3章で学んだ内容に関する課題について，主体的に学習し，数学のよさを認識する。			
	10	第4章　図形と計量 第1節　三角比	三角比 ＊直角三角形において，正弦･余弦･正接が求められる。 ＊直角三角形の辺の長さを三角比で表す式を理解し，応用問題に利用できる。 三角比の相互関係 ＊三角比の相互関係を利用して，1つの値から残りの値が求められる。			
	中間考査					
	10		三角比の拡張 ＊拡張された三角比を，座標平面に図示して考察することができる。 ＊座標を用いた三角比の定義を理解し，三角比の値からθを求めることができる。	期末考査 小テスト	期末考査 課題	ノート プリント
		第2節　三角形への応用	正弦定理 ＊正弦定理の図形的意味を考察する。 ＊正弦定理を利用して，三角形の外接円の半径，辺の長さや角の大きさが求められる。 余弦定理 ＊余弦定理の図形的意味を考察する。		ノート	
	11		＊余弦定理を利用して，三角形の辺の長さ，角の大きさが求められる。 正弦定理と余弦定理の応用 ＊余弦定理や正弦定理を用いて，三角形の残りの辺の長さや角の大きさを求めることができる。 ＊正弦定理を $a : b : c = \sin A : \sin B : \sin C$ として利用できる。 三角形の面積 ＊三角比を用いた三角形の面積公式を理解している。 ＊三角形の面積を，決定条件である2辺とその間の角または3辺から求めることができる。 ＊3辺が与えられた三角形の内接円の半径を求めることができる。			
	12		空間図形への応用 ＊正弦定理，余弦定理を空間図形の計量に応用で			

		課題学習	きる。 ＊測量や空間図形への応用では，適当な三角形に着目して考察できる。 ＊第4章で学んだ内容に関する課題について，主体的に学習し，数学のよさを認識する。			
	期末考査					
3学期	1	第5章　データの分析	データの整理 ＊データを度数分布表に整理することができる。また，度数分布表をヒストグラムで表すことができる。 データの代表値 ＊平均値や中央値，最頻値の定義や意味を理解し，それらを求めることができる。 データの散らばりと四分位数 ＊四分位範囲の定義やその意味を理解し，それを求め，データの散らばりを比較することができる。 ＊箱ひげ図をかき，データの分布を比較することができる。 分散と標準偏差 ＊分散，標準偏差の定義とその意味を理解し，それらに関する公式を用いて，分散，標準偏差を求めることができる。	課題考査 学年末考査 小テスト	課題考査 学年末考査 課題 ノート	ノート プリント
	2	課題学習	データの相関 ＊相関係数の定義とその意味を理解し，定義に従ってそれを求めることができる。 ＊相関係数は散布図の特徴を数値化したものであること，数値化して扱うことのよさを理解している。 ＊第5章で学んだ内容に関する課題について，主体的に学習し，数学のよさを認識する。			
	学年末考査					
	3		数学Ⅰの復習			

担当者からのメッセージ（学習方法など）
授業用ノート、4プロセスノートは分けてください。 毎日の復習が大切です。宿題と4プロセスの授業で習った問題を解きましょう。

令和7年度　年間指導計画　　滋賀県立米原高等学校

科目名	数学Ⅱ	学年	類型・コース	単位数
		1年	普通科普通類型	1単位
学習の目標	いろいろな式，図形と方程式の考えについて理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに，それらを活用する態度を育てる。			
使用教材	教科書:『新編 数学Ⅱ』（数研出版） 副教材:『新課程 チャート式 基礎からの 数学Ⅱ＋B+C』（数研出版） 『新課程 4プロセス数学Ⅱ＋B+C』（数研出版）			

評価				
	評価法	定期考査、小テスト、ノート、プリント、課題（宿題）で評価します。		
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	・数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。
		b	思考・判断・表現	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。
		c	主体的に学習に取り組む態度	・数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしたりしている。
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価（A，B，Cの３段階）及び評定（1～5の５段階）にまとめます。			

期	月	学習項目・単元	学習内容（言語材料・単元の目標）	評価方法 a	評価方法 b	評価方法 c
1学期	4					
	5					
	中間考査					
	6					
	7					
	期末考査					
2学期	9					
	10					
	中間考査					
	11					
	12					
	期末考査					
3学期	1	第1章　式と証明 第1節　式と計算	3次式の展開と因数分解 ＊3次式の展開・因数分解の公式を利用することができる。 ＊式の形に着目して変形し，3次式の因数分解の公式を適用する形にすることができる。	学年末考査	学年末考査	ノート プリント

			二項定理 ＊二項定理を利用して，展開式やその項の係数を求めることができる。 ＊二項定理を等式の証明に活用することができる。 整式の割り算 ＊整式の割り算の計算方法を理解している。 ＊割り算で成り立つ等式を理解し，利用することができる。 分数式とその計算 ＊分数式を分数と同じように約分，通分して扱うことができる。	小テスト	課題 ノート	
		第２節　等式・不等式の証明	恒等式 ＊恒等式となるように，係数を決定することができる。 ＊分数式の恒等式の分母を払った等式が恒等式であることを利用できる。 等式の証明 ＊恒等式Ａ＝Ｂの証明を，適切な方法で行うことができる。 不等式の証明 ＊平方の大小関係を利用して，不等式を証明することができる。 ＊相加平均･相乗平均の大小関係を利用して，不等式を証明することができる。			
		第2章　複素数と方程式 第1節　複素数と2次方程式の解	複素数とその計算 ＊複素数の四則計算ができる。 ＊負の数の平方根を理解している。 2次方程式の解 ＊2次方程式の解の公式を利用して，2次方程式を解くことができる。 ＊判別式を利用して，2次方程式の解を判別することができる。 解と係数の関係 ＊2次方程式の解を利用して，2次式を因数分解できる。 剰余の定理と因数定理 ＊剰余の定理を利用して，整式を1次式や2次式で割った余りを求めることができる。			
	2	第2節　高次方程式	高次方程式 ＊因数分解や因数定理を利用して，高次方程式を解くことができる。 ＊高次方程式の虚数解から，方程式の係数を決定することができる。			
		第3章　図形と方程式 第1節　点と直線	直線上の点 ＊数直線上において，2点間の距離，線分の内分点･外分点の座標が求められる。 平面上の点 ＊座標平面上において，線分の内分点･外分点の座標が求められる。 ＊座標平面を利用して，図形の性質を証明することができる。 直線の方程式 ＊x軸に垂直な直線は$y=mx+n$の形に表せないことを理解している。			

			＊与えられた条件を満たす直線の方程式の求め方を理解している。 直線の関係 ＊2直線の平行条件・垂直条件を理解していて，それを利用できる。 ＊点と直線の距離の公式を理解していて，それを利用できる。			
	学年末考査					
	3	第2節　円 課題学習	円の方程式 ＊x, yの2次方程式を変形して，その方程式が表す図形を調べることができる。 ＊3点を通る円の方程式を求めることができる。 課題学習1　パスカルの三角形の性質			

担当者からのメッセージ(学習方法など)
数学Ⅰの学習が終了した後、数学Ⅱの学習に入ります。授業用ノート、4プロセス用ノートは分けてください。 毎日の復習が大切です。宿題と4プロセスの授業で習った問題を解きましょう。

科目名	数学A	学年	類型・コース	単位数
		1年	普通科	2単位
学習の目標	場合の数と確率，図形の性質または整数の性質について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察する能力を養い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。			
使用教材	教科書:『新編 数学 A』（数研出版） 副教材:『新課程 チャート式 基礎からの 数学Ⅰ＋A』（数研出版） 『新課程 4プロセス数学Ⅰ＋A』（数研出版）			

評価				
	評価法	定期考査、小テスト、課題考査、ノート、プリント、課題（宿題）で評価します。		
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	●数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ●事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。
		b	思考・判断・表現	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。
		c	主体的に学習に取り組む態度	●数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 ●問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしたりしている。
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価（A, B, C の 3 段階）及び評定（1～5の 5 段階）にまとめます。			

期	月	学習項目・単元	学習内容（言語材料・単元の目標）	評価方法 a	評価方法 b	評価方法 c
1学期	4	第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数	集合の要素の個数 ＊ベン図を利用することで，和集合や補集合の要素の個数を求めることができる。 場合の数 ＊道順の数え方に興味を示し，樹形図，和の法則や対称性などによる場合の数の数え方に関心をもつ。 ＊和の法則，積の法則の利用場面を理解し，事象に応じて使い分けて場合の数を求めることができる。	中間考査 小テスト	中間考査 課題 ノート	ノート プリント
	5		順 列 ＊順列，円順列，重複順列の公式を理解し，利用することができる。 ＊簡単な場合の数を，順列，円順列，重複順列に帰着させて求めることができる。 ＊条件が付く順列，円順列を，見方を変えたり別なものに対応させたりして処理することができる。			
	中間考査			期末考査	期末考査	ノート
	5		組合せ ＊組合せの公式を理解し，利用することができる。 ＊条件が付く組合せを，見方を変えたり別なものに対応させたりして処理することができる。 ＊組合せの考え方を利用して図形の個数や同じものを含む順列の総数などが求められることに興味・関心をもつ。	小テスト	課題 ノート	プリント

	6	第2節 確 率	事象と確率 ＊試行の結果を事象としてとらえ，事象を集合と結びつけて考えることができる。 ＊確率の定義から，その求め方がわかる。 確率の基本性質 ＊確率の性質を理解し，和事象，余事象の確率の求め方がわかる。 ＊確率の計算に集合を活用し，複雑な事象の確率を求めることができる。 独立な試行と確率 ＊複雑な独立試行の確率を，公式や加法定理などを用いて求めることができる。 ＊複雑な反復試行の確率を，公式や加法定理などを用いて求めることができる。			
	7		条件付き確率 ＊条件付き確率や確率の乗法定理の考えに興味・関心をもち，積極的に活用しようとする。 ＊条件付き確率や確率の乗法定理を用いて確率の計算ができる。			
	期末考査					
2学期	9	第2章 図形の性質 第1節 平面図形	三角形の辺の比 ＊図形の性質を証明するのに，既習事項を用いて論理的に考察できる。 三角形の外心・内心・重心 ＊三角形の外心・内心・重心に関する性質に興味を示し，積極的に考察しようとする。 ＊三角形の外心・内心・重心の定義，性質を理解している。 チェバの定理・メネラウスの定理 ＊チェバの定理，メネラウスの定理を，三角形に現れる線分比を求める問題に活用できる。	課題考査 中間考査 小テスト	課題考査 中間考査 課題 ノート	ノート プリント
	10		三角形の辺や角の大小関係 ＊三角形の存在条件や，辺と角の大小関係について理解している。 円に内接する四角形 ＊円に内接する四角形の性質を利用して，角度を求めることができる。 ＊四角形が円に内接するための条件を利用して，円に内接する四角形を求めることができる。			
	中間考査					
	10 11	 第2節 空間図形	円と直線 ＊円の接線の性質を利用して，線分の長さを求めることができる。 ＊円の接線と弦の作る角の性質を利用して，角の大きさを求めることができる。 ＊方べきの定理を理解している。 2つの円 ＊共通接線の定義を理解し，その長さの求め方がわかる。 作図 ＊$\sqrt{a}$ の長さをもつ線分の作図の方法を文章で表現し，得られた図形が確かに条件を満たすことを証明することができる。 直線と平面 ＊空間における2直線の位置関係やなす角を理解している。	期末考査 小テスト	期末考査 課題 ノート	ノート プリント

	12		＊空間における直線や平面が平行または垂直となるかどうかを，与えられた条件から考察できる。 空間図形と多面体 ＊正多面体の特徴を理解し，それに基づいて面，頂点，辺の数を求めることができる。 ＊正多面体どうしの関係を利用して，正多面体の体積を求めることができる。			
	期末考査					
3学期	1	第3章 数学と人間の活動	約数と倍数 ＊ある整数 a の倍数は ak と表せることを使って，簡単な命題を証明することができる。 ＊平方数になる条件を，素因数分解の結果から考察することができる。 ＊自然数の正の約数やその個数を求めるのに，素因数分解が利用できることを理解している ＊2次の不定方程式を解くことができる。 最大公約数･最小公倍数 ＊2数の最小公倍数は2数の素因数のすべてを因数とするということを理解し，それを利用して問題を考察することができる。 ＊最大公約数と最小公倍数に成り立つ性質を利用して，2数の最大公約数と最小公倍数が既知のときにその2数を求めることができる。	課題考査 学年末考査 小テスト	課題考査 学年末考査 課題 ノート	ノート プリント
	2		＊最大公約数と最小公倍数に成り立つ性質を利用して，2数の最大公約数と最小公倍数が既知のときにその 2 数を求めることができる。 整数の割り算と商･余り ＊2つの整数 a, b を除数と余りを用いて表し， $a+b$ などの余りを求めることができる。 ＊偶数，奇数の文字による表し方を理解し，それを利用して簡単な整数の性質を証明することができる。 ＊整数をある正の整数で割った余りで分類して，簡単な整数の性質を証明することができる。 ユークリッドの互除法 ＊互除法を利用して，$ax+by=c$ を満たす整数 x, y の組を求めることができる。 1次不定方程式 ＊係数が小さい場合の1次不定方程式の特殊解を求め，それによりすべての整数解を求めることができる。			
	学年末考査					
	3		＊係数が大きい場合の１次不定方程式の特殊解を求め，それによりすべての整数解を求めることができる。 ＊整数に関する問題を，1 次不定方程式に帰着させることができ，問題を解くことができる。 n 進法 ＊ n 進法の整数を10進法で，10進法の整数を n 進法で表すことができる。 ＊ n 進法の小数を10進法で，10進法の整数を n 進法で表すことができる。			

担当者からのメッセージ(学習方法など)
授業用ノート、4プロセスノートは分けてください。 毎日の復習が大切です。宿題と4プロセスの授業で習った問題を解きましょう。

令和7年度　年間指導計画　　滋賀県立米原高等学校

科目名	化学基礎	学年	類型・コース	単位数
		1年	普通科	2単位
学習の目標	物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しを持って観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を身につける。			
使用教材	教科書:『化学基礎』(数研出版) 副教材:『2025 新課程版　セミナー化学基礎』(数研出版)、 サイエンスビュー化学総合資料(実教出版)			

評価				
	評価法	定期考査、小テスト、実験レポート、発表、ワークシート、振り返りの記述等で評価します。		
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。
		b	思考・判断・表現	物質とその変化から問題を見出し、見通しを持って観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど科学的に探究している。
		c	主体的に学習に取り組む態度	物質とその変化に主体的に関わり、見通しを持ったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, C の 3 段階)及び評定(1～5の 5 段階)にまとめます。			

期	月	学習項目・単元	学習内容(言語材料・単元の目標)	評価方法 a	評価方法 b	評価方法 c
1学期	4	序章 化学の特徴 第1編 第1章 純物質と混合物 物質とその成分 物質の三態と熱運動	＊『4 種類の水溶液』をテーマに探究の過程を意識して仮説を立て、実験を実施し、発表することができる。 ＊ 物質の構成について疑問・興味を持つ。 ＊ 物質を分離する操作がどのようなものであるか説明することができる。 ＊【実験】混合物の分離(教 p29 実2) ＊【実験】成分元素の検出(教 p36) ＊ 物質の三態における粒子の熱運動をシミュレーションする。 ＊ 物質を加熱した時の温度変化のグラフについて説明することができる。	中間考査 小テスト (元素記号)	中間考査	
	5	第2章 原子とその構造 イオン	＊ 原子の構成粒子から原子番号が何によって決定されているか見出し、同位体に興味を持つ。 ＊ ニホニウムがどのように作られたか考え、放射線に興味を持つ。 ＊ 原子の電子配置からどのようなイオンになりやすいか予測することができる。 ＊ イオンの大小について電子配置から予測することができる。	小テスト (イオン式)		
		中間考査				
	5	周期表 第3章 イオン結合とイオン結晶	＊ キーワードを用いて元素当てクイズを作成する。 ＊ メンデレーエフの周期表から未知の元素を推測することができる。 ＊【実験】イオンからなる物質を通して、イオン結晶の性質を構造から説明することができる。	期末考査	期末考査	

			＊ イオン結晶を組成式で表すことができる。			
	6	共有結合と分子 配位結合 分子間にはたらく力	＊ 共有結合・共有電子対・非共有電子対について説明することができる。 ＊ 分子を電子式・構造式を用いて書き表す。 ＊ 分子模型を用いて分子の形が何で決まるのか理解し、未知の分子の構造を予測することができる。 ＊ 塩化アンモニウムに含まれる3種類の結合について説明できる。 ＊ 電気陰性度のデータをもとに、分子の極性の有無を判断することができる。 ＊ 分子間力と沸点の関係をグラフから見出す。	小テスト （組成式）		
	7	共有結合結晶 金属結晶	＊ 共有結合結晶の特徴について理解し、分子結晶との違いについて説明することができる。 ＊ 金属の持つ性質を、金属結合をもとに説明することができる。 ＊【実験】物質を見分ける（教 p98）			レポート
		期末考査				
2学期	9	第2編 第1章 原子量・分子量・式量 物質量 溶液の濃度	＊　相対質量を計算して求めることができる。 ＊　同位体の存在を思い出し、原子量が相対質量の平均値であることを見出すことができる。 ＊　小さな粒を数えるためにはまとまりで考えることが便利なことを見出し、物質量の概念に興味を持つ。 【実習】米粒を早く正確に数えるには ＊ 物質量と質量・気体の体積との関係を見出す。 ＊【実験】物質量を体感する（教 p111） ＊ モル濃度と質量パーセント濃度の違いに注意し、それぞれの濃度を求めることができる。 ＊【実験】0.1mol/L の NaCℓ水溶液を作成する方法を記述することができる。	中間考査 小テスト （物質量）	中間考査	レポート
	10	化学反応式と物質量	＊ 化学反応式を作ることができる。 ＊【実習】化学反応式の係数が物質量に比例していることを見出す ＊ 化学反応式を用いて量的な計算を行うことができる。	小テスト （反応式）		
		中間考査				
	11	第2章 酸と塩基 水素イオン濃度と pH 中和反応と塩	＊【実験】濃度が未知の塩酸の濃度を求めよ。 ＊ 塩化水素とアンモニアの反応から、アレニウスの定義を拡張して考えることができる。 ＊ 同じ濃度の塩酸・硫酸・酢酸の pH を測定し、水素イオン濃度が違うことから、[H^+]の濃度の求め方を見出す。 ＊ 中和反応を化学反応式で書き表すことができる。 ＊【実習】生じた塩の水溶液の液性と、元の酸・塩基の強弱との関係を見出し、フローチャートで書き表すことができる。	期末考査 小テスト （酸・塩基）	期末考査	レポート
		期末考査				
3学期	12	中和滴定	＊【実験】中和の量的関係を用いて、濃度未知の食酢の酢酸の質量パーセント濃度を実験から求めることができる。 ＊ 酸の強弱から滴定曲線の特徴を見出し、適切な指示薬を選択することができる。			レポート

	1	第3章 酸化還元	＊【実験】中和の量的関係を用いて、濃度未知の食酢の酢酸の質量パーセント濃度を実験から求めることができる。 ＊ 酸の強弱から滴定曲線の特徴を見出し、適切な指示薬を選択することができる。 ＊ 身の回りにある酸化還元反応の例を挙げ、教科書 p170-207 の質問づくりを行う。 ＊ 酸化還元反応の3つの定義を学び、酸化還元反応には電子の移動が伴うことを見出す。 ＊ 酸化数を求めることができるようになる。	小テスト （酸化数）		レポート
	2	酸化剤と 還元剤	＊ 酸化剤と還元剤のはたらきを示す反応式から酸化剤と還元剤のはたらきについて説明できる。 ＊ はたらきを示す反応式から化学反応式を作ることができる。 ＊【実験】酸化剤と還元剤の反応 ＊ 酸化還元反応の化学反応式から、量的関係を見出し、過酸化水素の濃度を求めることができる。	小テスト （酸化剤 還元剤）		レポート
	学年末考査					
	3	金属の酸化 還元反応	＊ 金属樹ができることに興味を持ち、金属の単体とイオンがどのような場合に金属樹が生じるのかを見出すことができる。【実習】金属樹 ＊ イオン化傾向と酸との反応について、酸と酸化力の違いを明確にしながら説明できる。	学年末考査	学年末考査	

担当者からのメッセージ（学習方法など）
化学基礎では実験や協働学習の機会を大切にしてください。学校で化学を学ぶ意義は「実際に物質や実験器具に触れてみる」「クラスメイトと考え方や意見を共有するなかで、探究する力をつける」ことにあると思っています。理科はテスト前に必要事項を一生懸命暗記して、それをテスト用紙に書きつける教科だと思っていませんか？確かに化学の基本的な事項を頭に入れることは大切です。しかし、コンテンツとともに学びのプロセスも大切にしてほしいのです。学びのプロセスを身に着ければ、どんな場面にも対応できる力が付きます。化学を通して、学ぶ力をつけていきましょう。

令和7年度　年間指導計画　　滋賀県立米原高等学校

科目名	生物基礎	学年	類型・コース	単位数
		1年	普通科	2単位
学習の目標	生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。			
使用教材	教科書:『生物基礎』(数研出版) 副教材:『新課程二訂版スクエア最新図説生物』(第一学習社) 『リードα生物基礎』(数研出版)			
評価	評価法	定期考査、実験・実習レポート、授業ノートなどで評価します。		
	評価観点の趣旨	a　知識・技能	知識の習得や知識の概念的な理解、実験操作の基本的な技術の習得ができている。	
		b　思考・判断・表現	習得した「知識・技能」を活用して、課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身に付けている。	
		c　主体的に学習に取り組む態度	知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、粘り強く学習に取り組んでいる、自ら学習を調整しようとしている。	
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A，B，Cの3段階)および評定(1～5の5段階)にまとめます。			

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法 a	評価方法 b	評価方法 c
1学期	4	序章　生物基礎を学ぶにあたって 第1章　生物の特徴 1.生物の多様性と共通性 2.エネルギーと代謝	＊　生物基礎で学習する内容の概要を把握する。 ＊　顕微鏡の使い方を習得できる。 ＊　生物は多様でありながら、共通性をもつことを理解できる。生物の持つ共通性と多様性は、生物の進化の結果であることを理解できる。 ＊　生命活動にはエネルギーが必要であることを理解できる。エネルギーは共通のATPの形で供給されることを理解できる。		レポート	レポート
	5	3.呼吸と光合成	＊　呼吸や光合成によってATPが供給されることを理解できる。生命活動は化学反応であり、酵素によって、生体内で必要な化学反応が進行することを理解できる。 ＊　高校周辺の生態系の観察(夏)			レポート 授業ノート
		中間考査		中間考査	中間考査	
	5	第4章　生物の多様性と生態系 1.植生と遷移	＊　植生の成り立ちや相観について理解する。植生が時間の経過とともに移り変わっていくことを理解できる。			
	6	2.植生の分布とバイオーム 3.生態系と生物の多様性	＊　世界各地には、多様なバイオームが成立していることを理解できる。気候条件によっては、遷移の結果として森林の他に草原や荒原にもなることを理解できる。 ＊　生態系の成り立ちを理解できる。生物どうしの関係が種多様性の維持に関わっていることを理解できる。			
		期末考査		期末考査	期末考査	授業ノート

	7		＊ ウニの発生観察		レポート	レポート
2学期	9	第３章 ヒトの体内環境の維持 1.体内での情報伝達と調節 2.体内環境の維持のしくみ ３ 免疫の働き	＊ 体内での情報伝達が、からだの状態の調節に関係していることを理解できる。自律神経系と内分泌系による情報伝達によって、体の状態の調節が行われていることを理解できる。 ＊ ホルモンと自律神経の働きによって、体内環境が維持されることを理解できる。 ＊ ブタの血液の観察 ＊ からだに、異物を排除する防御機構が備わっていることを理解できる。免疫と病気の関係や医療に応用されていることについて理解できる。 ＊ 体内環境についての映像鑑賞		レポート	レポート
	10					授業ノート
	中間考査			中間考査	中間考査	
	10	第 2 章 遺伝子とそのはたらき 1. 遺伝情報とDNA	＊ DNA は 2 本のヌクレオチド鎖からなる二重らせん構造をしていることを理解できる。遺伝情報は DNA の塩基配列にあることを理解できる。			
	11	2.遺伝情報の複製と分配	＊ DNA が半保存的に複製されることを理解できる。細胞周期の進行に伴って DNA が正確に複製され 2 つの細胞に分配されることを理解できる。			
	12	3.遺伝情報の発現	＊ タンパク質のアミノ酸配列は、DNA の塩基配列によって決まることを理解できる。個体が構成している細胞は遺伝的に同一であるが、細胞の機能に応じて発現している遺伝子が異なることを理解できる。 ＊ DNA の抽出実験 ＊ アカムシのだ腺染色体観察		レポート	レポート 授業ノート
	期末考査			期末考査	期末考査	
3学期	1	3.遺伝情報の発現 第 4 章 生物の多様性と生態系	＊ バイオテクノロジーについて学ぶ。 ＊ 生態系が持つ復元力について理解できる。人間活動が生態系に及ぼす影響について理解できる。生態系の保全の重要性について理解できる。			
	2	4.生態系のバランスと保全	＊ 高校周辺の生態系の観察(冬)	学年末考査	学年末考査	授業ノート
	学年末考査					
	3	まとめ	1 年間のまとめ			

担当者からのメッセージ(学習方法など)
日々の授業においては、その日の内容を理解できるよう、授業中および家庭で教科書を読む。図説や問題集を利用しながら、復習をする。考査前には、再度問題集を解く。 実験や実習においては、目的を理解し、取り組み、「考察」を大切にしたレポートを必ず提出する。

令和7年度　年間指導計画　　滋賀県立米原高等学校

<table>
<tr><td rowspan="2">科目名</td><td colspan="3" rowspan="2">体育</td><td>学年</td><td>類型・コース</td><td>単位数</td></tr>
<tr><td>1年</td><td>全員</td><td>2単位</td></tr>
<tr><td>学習の目標</td><td colspan="6">体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と課題を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質や能力を育成する。</td></tr>
<tr><td>使用教材</td><td colspan="6">教科書:『新高等保健体育』(大修館書店)
副教材:『ステップアップ高校スポーツ 2025」(大修館書店)</td></tr>
<tr><td rowspan="5">評価</td><td>評価法</td><td colspan="5">各種目における技能、学習カード、及び観察(授業内での仲間との連携やその種目に対する主体性)で評価します。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">評価観点の趣旨</td><td>a</td><td>知識・技能</td><td colspan="3">運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解しているとともに、それらの技能を身に付けている。</td></tr>
<tr><td>b</td><td>思考・判断・表現</td><td colspan="3">生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し、判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。</td></tr>
<tr><td>c</td><td>主体的に学習に取り組む態度</td><td colspan="3">生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするとともに、健康・安全を確保している。</td></tr>
<tr><td colspan="5">上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A，B，Cの3段階)および評定(1～5の5段階)にまとめます。</td></tr>
</table>

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1学期	4	体つくり運動(体ほぐしの運動)	＊ 軽快な運動を行い、心と体は互いに影響し、変化することや心身の状態に気付き、仲間と自主的に関わることができる。 ＊ 自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。	学習カード(知識) 行動観察(運動)	行動観察(仲間との連携)	行動観察
	4 5	選択競技①(器械運動(マット)・器械運動(跳び箱)・陸上競技(ハードル走)	＊回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技や発展技を行うことができる(マット運動)。 ＊切り返し系や回転系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技や発展技を行うことができる(跳び箱運動)。 ＊技などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができる。 ＊器械運動に自主的に取り組むとともに、互いに良い演技を讃えたり、助け合い、教え合いをしようとすることができる。 【陸上競技】 ＊スピードを維持した走りからハードルを低く越すことができる。(ハードル走)。 ＊動きなどの自己や仲間の課題を発見し，合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに，自己の考えたことを他者に伝えることができる。	【器械運動・陸上競技】 学習カード(知識) その種目の演技(技能)	【器械運動・陸上競技】 行動観察(仲間との連携)	【器械運動・陸上競技】 行動観察

			＊陸上競技に自主的に取り組むとともに，勝敗などを冷静に受け止め，ルールやマナーを大切にしようとすること，一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとすることができる。			
	中間考査実施予定なし					
	6	選択競技①	上記選択競技①同様。	上記選択競技①同様		
	7	体育理論①	＊スポーツは人類の歴史とともに始まり、その理念が時代に応じて多様に変容していること、近年では我が国から世界に普及し、発展しているスポーツがあることについて自己の考えを深めたりできる。 ＊自己や社会にスポーツがもたらす影響について課題を発見することができる。	ワークシート	行動観察 ワークシート	行動観察
	期末考査実施予定なし					
2学期	9	体つくり運動（実生活に生かす運動の計画）	＊健康に生活するための体力、及び運動を行うための体力向上を図る運動の計画と実践ができる。 ＊自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。	学習カード（知識） 行動観察（運動）	行動観察（仲間との連携）	行動観察
		選択競技②（バスケットボール（ゴール型）・ソフトテニス（ネット型）・ソフトボール（ベースボール型））	【ハンドボール】 ＊各種目の技術や戦術には名称があり、それらをゲーム中に適切に発揮することが攻防のポイントであることが理解できる。 ＊安定したボール操作と空間を作り出すなどの連携した動きによってゴール前への侵入などから攻防を展開できる ＊選択した運動について合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えることができる。 ＊選択した運動に自主的に取り組むとともに、作戦などについての話し合いに貢献しようとしたり、互いに助け合い、教え合ったりできる。	【バスケットボール】 学習カード(知識)	【バスケットボール】 行動観察（仲間との連携）	【バスケットボール】 行動観察
	10		【ソフトテニス】 ＊各種目の技術や戦術には名称があり、それらをゲーム中に適切に発揮することが攻防のポイントであることが理解できる。 ＊相手側のコートの空いているところや狙ったところにボールを打つことができる。 ＊選択した運動について合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えることができる。 ＊選択した運動に自主的に取り組むとともに、作戦などについての話し合いに貢献しようとしたり、互いに助け合い、教え合ったりできる。 【ソフトボール】 ＊各種目の技術や戦術には名称があり、それらをゲーム中に適切に発揮することが攻防のポイントであることが理解できる。 ＊安定したバット操作により出塁、進塁、得点する攻撃と仲間と連携した守備のバランスのとれた攻防を展開できる。 ＊選択した運動について合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えることができる。 ＊選択した運動に自主的に取り組むとともに、作戦などについての話し合いに貢献しようとしたり、互いに助け合い、教え合ったりできる。	【ソフトテニス】 学習カード（知識） ボールコントロール(技能) 【ソフトボール】 学習カード(知識) バット操作・守備の連携(技能)	【ソフトテニス】 行動観察（仲間との連携） 【ソフトボール】 行動観察（仲間との連携）	【ソフトテニス】 行動観察 【ソフトボール】 行動観察
	中間考査実施予定なし					
	11	選択競技③	【サッカー】	【ハンド	【・ハンド	【・ハンド

		（ハンドボール・サッカー（ゴール型）・卓球（ネット型））	＊各種目の技術や戦術には名称があり、それらをゲーム中に適切に発揮することが攻防のポイントであることが理解できる。 ＊安定したボール操作と空間を作り出すなどの連携した動きによってゴール前への侵入などから攻防を展開できる ＊選択した運動について合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えることができる。	ボール・サッカー】 学習カード(知識) 仲間との連携プレイ(技能)	ボール・サッカー･卓球】 行動観察（仲間との連携）	ボール・サッカー･卓球】 行動観察
	12		＊選択した運動に自主的に取り組むとともに、作戦などについての話し合いに貢献しようとしたり、互いに助け合い、教え合ったりできる。 【バスケットボール】 ＊各種目の技術や戦術には名称があり、それらをゲーム中に適切に発揮することが攻防のポイントであることが理解できる。 ＊安定したボール操作と空間を作り出すなどの連携した動きによってゴール前への侵入などから攻防を展開できる ＊選択した運動について合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えることができる。 ＊選択した運動に自主的に取り組むとともに、作戦などについての話し合いに貢献しようとしたり、互いに助け合い、教え合ったりできる。 【バドミントン】 ＊各種目の技術や戦術には名称があり、それらをゲーム中に適切に発揮することが攻防のポイントであることが理解できる。 ＊相手側のコートの空いているところや狙ったところにボールを打つことができる。 ＊選択した運動について合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えることができる。 ＊選択した運動に自主的に取り組むとともに、作戦などについての話し合いに貢献しようとしたり、互いに助け合い、教え合ったりできる。	【卓球】 学習カード(知識) ボールコントロール(技能)		
	期末考査実施予定なし					
	12	体育理論②	＊現代のスポーツは国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていること、その代表的なものにオリンピックやパラリンピックがあり、それらの意義や競技種目について、自己の考えを深めたりできる。 ＊ドーピングはフェアプレイの精神に反するなど、能力の限界に挑戦するスポーツの文化的価値を失わせることについて、自己の考えを深めたりできる。 ＊ドーピングの防止について、課題を発見することができる。	ワークシート	行動観察 ワークシート	行動観察

3学期	1	選択競技④（バドミントン・バレーボール・卓球（ネット型））	【バドミントン】 ＊各種目の技術や戦術には名称があり、それらをゲーム中に適切に発揮することが攻防のポイントであることが理解できる。 ＊相手側のコートの空いているところや狙ったところにボールを打つことができる。 ＊選択した運動について合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えることができる。 ＊選択した運動に自主的に取り組むとともに、作戦などについての話し合いに貢献しようとしたり、互いに助け合い、教え合ったりできる。 【バレーボール】 ＊各種目の技術や戦術には名称があり、それらをゲーム中に適切に発揮することが攻防のポイントであることが理解できる。 ＊ポジションの役割に応じたボール操作によって、仲間と連携した「拾う・つなぐ・打つ」などの一連の流れで攻撃を組み立てたりして、相手側のコートの空いた場所をめぐる攻防をすることができる。 ＊選択した運動について合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えることができる。 ＊選択した運動に自主的に取り組むとともに、作戦などについての話し合いに貢献しようとしたり、互いに助け合い、教え合ったりできる。 【卓球】 ＊各種目の技術や戦術には名称があり、それらをゲーム中に適切に発揮することが攻防のポイントであることが理解できる。 ＊相手側のコートの空いているところや狙ったところにボールを打つことができる。 ＊選択した運動について合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えることができる。 ＊選択した運動に自主的に取り組むとともに、作戦などについての話し合いに貢献しようとしたり、互いに助け合い、教え合ったりできる。	【バドミントン】 学習カード（知識） ボールコントロール（技能） 【バレーボール】 学習カード（知識） 仲間との連携プレイ（技能） 【卓球】 学習カード（知識） ボールコントロール（技能））	【バドミントン・バレーボール・卓球】 行動観察（仲間との連携）	【バドミントン・バレーボール・卓球】 行動観察
	2					
	学年未考査実施予定なし					
	3	選択競技④	上記選択競技④同様。	上記選択競技④同様		
		体育理論③	＊スポーツの経済的効果を理解したり、スポーツを「みる・支える」視点からとらえ、スポーツと関わる経済活動に求められるスポーツの価値の遵守について、自己の考えを深めたりできる。 ＊スポーツに関わる人々の増加は地域の人々の生活や社会環境に様々な影響をもたらすことを理解し、多様性への理解や持続可能な社会の実現に寄与する責任ある行動について、自己の考えを深めたりできる。 ＊持続可能なスポーツの発展のための課題解決に向けて、自己の提案を言葉や文章などを通して他者に伝えることができる。	ワークシート	行動観察 ワークシート	行動観察

担当者からのメッセージ（学習方法など）
選択競技においては、副教材を用いて各種目における知識（技術の名称等）を説明しながら、各種目の技能レベルの向上を目指し、仲間と協力して取り組むことができるよう指導する。 体育理論においては、教科書やプリントを用いて授業を進め、個人がスポーツ文化を創造する主体となっていることに気付くことができるよう指導する。

令和7年度　年間指導計画　　滋賀県立米原高等学校

科目名	保健	学年	類型・コース	単位数
		1年	全員	1単位
学習の目標	保健の見方、考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質や能力を育成する。			
使用教材	教科書:『新高等保健体育』(大修館書店) 副教材:『図説　新高等保健』(大修館書店)			
評価	評価法	定期考査、小テスト(単元ごと)、授業ファイル、ワークシートで評価します。		
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに技能を身につけている。
		b	思考・判断・表現	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。
		c	主体的に学習に取り組む態度	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A，B，Cの3段階)および評定(1～5の5段階)にまとめます。			

期	月	単元・学習項目	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1学期	4	健康の考え方	＊国民の健康水準の向上や疾病構造の変化から国民の健康課題を考え、課題解決の方法を発見することができる。 ＊健康の保持増進にはヘルスプロモーションの考え方を踏まえた個人の適切な意思決定や行動選択及び環境づくりがあることについて理解したことを言ったり、書いたりできる。	期末考査	期末考査 ワークシート	小テスト 授業ファイル
	5					
	中間考査実施予定なし					
	6	現代の感染症とその予防	＊感染症の発生や流行には、時代や地域によって違いが見られることを理解することができる。 ＊感染症の予防における社会的な対策や個人の取組について発見し、それを表現することができる。			
	7	生活習慣病などの予防と回復	＊健康の保持増進と生活習慣病などの予防と回復には、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活の実践や疾病の早期発見が必要であることを理解することができる。 ＊生活習慣病などの予防と回復について、習知した知識を基に、必要な個人の取組や社会的な対策を発見することができる。			
	期末考査					
2学期	8			期末考査	期末考査 ワークシート	小テスト 授業ファイル
	9	生活習慣病などの予防と回復	上記同様。			
	10	喫煙、飲酒、薬物乱用と健康	＊喫煙と飲酒は生活習慣病などの要因になることや、薬物乱用は心身の健康や社会に深刻な影響を与える			

			ため、行ってはならないことについて理解することができる。 ＊過度の飲酒、喫煙、薬物乱用を防止するために必要な個人的な対策、社会環境への対策を発見することができる。			
	中間考査実施予定なし					
	11	精神疾患の予防とその回復	＊精神疾患の予防と回復には、身体の健康と同じく、調和のとれた生活習慣を実践することや心身に不調に気づくことが重要であることについて理解することができる。 ＊精神疾患の予防と回復のためには、心身の健康を保ち、不調に早く気づくことが重要であり、そのために必要な個人の取組や社会的な対策を発見することができる。			
	12	安全な社会づくり	＊交通事故を防止するために車両の特性や事故の発生要因、自他の生命を尊重する態度が必要であることを理解することができる。 ＊交通事故の防止に向けて必要な個人の適切な行動や交通環境の整備について発見することができる。			
	期末考査					
3学期	1 2	応急手当	＊適切な応急手当は傷害や疾病の悪化を軽減することを理解したり、心肺蘇生法などの応急手当の正しい手順や方法を身につけたりできる。 ＊応急手当について習得した知識や技能を、事故や災害で生じる傷害や疾病に関連付けて、悪化防止のための適切な方法に応用することができる。	期末考査 応急手当の実技	期末考査 ワークシート	小テスト 授業ファイル
	学年末考査					
	3	応急手当	上記同様。			

担当者からのメッセージ（学習方法など）
上記教材の他にプリントを使用しながら授業を進め、各単元において自己や社会の課題を発見し、その解決を図る主体的・協働的な学習過程通して、生涯を通じて心身の健康を保持増進するための資質・能力を育成することを目指す。

令和 7 年度　年間指導計画　　滋賀県立米原高等学校

科目名	音楽Ⅰ	学年	類型・コース	単位数
		1年	選択	2単位
学習の目標	音楽の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。			
使用教材	教科書『ON!1』(音楽之友社)			
評価	評価法	歌唱・器楽…練習、発表　　創作…作編曲、発表会企画 鑑賞…感想文、意見交換　　理論…小テスト　　で評価します。		
	評価観点の趣旨	a　知識・技能	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解を深めている。 創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作などで表している。	
		b　思考・判断・表現	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。	
		c　主体的に学習に取り組む態度	音や音楽、音楽文化と豊かに関わり、主体的・協働的に表現および鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A，B，C の 3 段階)および評定(1～5 の 5 段階)にまとめます。			

期	月	時数	学習項目・題材	学習内容（言語材料・単元の目標）	評価方法 a	評価方法 b	評価方法 C
1学期	4	6	器楽	Beat Canon(ボディ・パーカッション) ＊ お互いのパートを意識しながら、アンサンブルする喜びをもって演奏する			行動観察1
	5	8	歌唱	翼をください(2 部合唱) ＊ 五線譜の読み方を理解する ＊ 発声の仕組みを理解して、2 部合唱に取り組む	テスト1		
			器楽	喜びの歌　もろびとこぞりて(リコーダー) ＊ リコーダーの基本的な奏法を習得する	テスト2		
	中間考査実施予定なし						
	6	6	歌唱	この道 ＊ 日本の歌の美しさや特徴を感じ取り、詩を味わって歌唱する			行動観察2
			創作	ヴォイス・リズムを作ろう	作曲作品		
	7	6		＊ 身近な言葉と音楽の結びつきを感じ取ってリズムで表現する			
			鑑賞	オラトリオ「メサイア」 ＊ 楽曲の特徴と表現の効果を感じ取って鑑賞する		感想文1	
	期末考査実施予定なし						
2学期	8	2	歌唱	Ombra mai fu(イタリア語)			行動観察3
	9	8	歌唱	Heidenröslein(ドイツ語) ＊ 外国語の言葉の響きに関心を持って取り組む	テスト3		
	10	8	器楽	喜びの歌　Edelweiss　広い河の岸辺(ギター) ＊ ギターの基本的な奏法を習得する	テスト4		

	中間考査実施予定なし						
	11	8	鑑賞 歌唱 器楽	箏曲「六段の調」 ＊ 箏の奏法や音色の変化に注意して鑑賞する さくら　南部牛追歌 ＊ 声の特色とその技法を感じ取り、工夫しながら表現する 「ぐるぐるピアノ」から（キーボード・アンサンブル）	発表 1	感想文 2	行動観察 4
	12	4	鑑賞	＊ ピアノの基本的奏法を習得し、合奏に取り組む ピアノ・ソナタ第 8 番ハ短調 作品 13「悲愴」 ＊ ピアノ・ソナタについて理解する		感想文 3	
	期末考査実施予定なし						
3学期	1	6	創作	発表会 1.クラス合唱 2.個人又は少人数のアンサンブル	発表 2	感想文 4	記録
	2	6		＊ 1 及び 2 に取り組む			
	学年末考査実施予定なし						
	3	2	歌唱	春に（混声 3 部合唱） ＊ 混声 3 部合唱に取り組む			行動観察 5

担当者からのメッセージ（学習方法など）
歌唱 ● 発声練習を繰り返し行い、自分の声の特徴や音域を知ることができるように取り組む ● 音取りについて、聴いて覚えるだけでなく、楽譜を読みキーボードを使用するなど、主体的な取り組みを促す工夫をして進める。 器楽 ● 環境や経験に個人差があることが考えられるため、学習内容や進め方に注意する。

テスト	1	2 部合唱部分の音取りについて、キーボード演奏、無伴奏歌唱、弾き歌いに取り組む。
	2	リコーダー…変奏（タンギングを変える）や 2 部合奏に取り組む。
	3	シューベルトとヴェルナーそれぞれの旋律の特徴を捉えて、ドイツ語の歌唱に取り組む。
	4	ギターの構え方、手の番号・記号、奏法、TAB 譜の読み方を理解し、メロディ、和音、アルペッジョなど、いろいろな奏法を習得する。
作曲作品		身近な言葉にリズムを感じ取り、楽譜を作る。
発表 1		楽器の音域と楽譜を結び付けて理解する。連弾に挑戦し、年度末の発表会に向けて、人前での演奏に慣れる。
発表 2、感想文 4、記録		選曲し、編曲、練習、発表、鑑賞まで、主体的・協働的に取り組む。
感想文	1	オラトリオが、宗教的な題材をもち、独唱、合唱、管弦楽から成り立っていることを理解する。
	2	箏の歴史や特徴を理解し、奏法と音色の変化を味わって鑑賞する。
	3	楽曲の形式と音楽の美しさの結びつきを感じ取って鑑賞する。
行動観察	1	グループに分かれて練習をする。意見を出しながら、協力してアンサンブルする。
	2	作曲家が詩をどう解釈して音楽に生かしたのか、言葉と音楽の結びつきについて考えを深める。
	3	オペラの場面を想像しながら、美しい旋律とイタリア語の響きを表現する。
	4	さくら…箏譜について学ぶ。 南部牛追い歌…自由リズムの旋律の特徴を感じ、音の伸ばし方、間の取り方など工夫して歌う。
	5	各声部の役割を考え、歌詞のイメージを持って歌う。

令和７年度年間指導計画　　滋賀県立米原高等学校

科目名	美術Ⅰ	学年	類型・コース	単位数
		1年	選択	2単位
学習の目標	美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、制作体験をすることで生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を育成し、共感する心情を育む。			
使用教材	教科書:『高校生の美術Ⅰ』(日本文教出版)			
評価	評価法	実技表現の技能の評価 鑑賞学習から見方や感じ方、考え方を言葉にして表現できるかプリントで評価 授業中の態度、作品の進度で評価		
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。
		b	思考・判断・表現	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発送や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。
		c	主体的に学習に取り組む態度	美術や美術文化と豊かに関わり主体的に表現および鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A，B，Cの3段階)および評定(1～5の5段階)にまとめます。			

期	月	時数	学習項目・題材	学習内容 (言語材料・題材の目標)	評価方法 a	評価方法 b	評価方法 c
1学期	4	6	オリエンテーション	美術Ⅰで学習する内容について説明			
	5	8	デザイン イラスト表現 鑑賞学習	イラストレーションで自己紹介シートを制作 完成したら他の生徒の作品を見た感想や自己評価をプリントに書く ＊ イラストレーションで簡素化し見やすくできることを理解し、表現しているか ＊ イラストレーションで簡素化し見やすくできることを理解し、表現しているか ＊ 鑑賞学習で見方や感じ方を深め言語化できるか ＊ イラストレーションで表現することに関心を持ち、意欲的に取り組んで進めているか	作品 プリント	作品 プリント	行動観察 プリント
	中間考査実施予定なし						
	6	6	スケッチ教室の風景	鉛筆で教室の風景をスケッチをする ＊ 風景の造形的な要素を理解し表現しているか ＊ 遠近法を理解し、構図・構成を工夫しているか ＊ 風景、遠近法に関心を持ち主体的に制作している	作品	作品	行動観察
	7	6	鑑賞学習	クロード・モネやフェルメールの油彩画作品を鑑賞学習/教科書・ポスター教材を使用 /プリントに記述解答する ＊油彩画作品の良さや美しさを感じたり深めているか ＊意欲的に理解しようとしているか	プリント	プリント	プリント
	期末考査実施予定なし						

2学期	8	2	油彩画制作	油絵具を使って、静物画を制作 ＊ モチーフの造形的な要素を理解し表現しているか ＊ 油絵具の使い方を理解し工夫して制作しているか ＊ 完成し制作した感想や自己評価をする ＊ 構図・構成を工夫しているか ＊ 油彩画で制作することに関心を持ち主体的に制作している	作品	作品 プリント	行動観察
	9	8					
	10	8					
	中間考査実施予定なし						
	11	8	美術史演習	鑑賞学習したフェルメールとクロード・モネのそれぞれの時代と美術文化の変化を考察		確認 テスト	
			アニメーションの手法	物語を切り絵で場面制作したものを、デジタル機器を使って写真のコマ撮りにし、編集してアニメーションを制作する ＊ 物語の流れを効果的に表現する工夫をして切り絵を制作している ＊ 物語を自発的に考え、起承転結を工夫している ＊ アニメーションにすることに関心を持ち、主体的に切り絵を制作している	作品	作品	行動観察
	12	4					
	期末考査実施予定なし						
3学期	1	6	アニメーションの手法	デジタル機材を使って編集しアニメーション制作をする ＊ 機材の操作方法や編集することを理解して制作している ＊ 物語の展開を工夫し、考えている ＊ アニメーションや編集に関心を持ち主体的に制作している	行動観察	作品	行動観察
	2	6					
	学年末考査実施予定なし						
	3	2	作品鑑賞又は鑑賞学習	制作した作品の鑑賞会・または映像作品の鑑賞学習//プリントを使用 ＊ 作品鑑賞して感想などを言語化できているか ＊ 作品に関心を持ち主体的に鑑賞している	プリント	プリント	プリント

担当者からのメッセージ（学習方法など）
教科書の QR コードから、資料や詳しい内容を視聴することができる。 QR コードをスマホ、タブレットで読み込み、資料を閲覧したり鑑賞作品を視聴し理解を深めることが望ましい。

科目名	書道Ⅰ	学年	類型・コース	単位数
		1年	選択	2単位
学習の目標	書道の表現活動を通して、書のよさや美しさを理解し、伝統文化の価値を知り、書の表現方法や多様性を育成する。			
使用教材	教科書:『書道Ⅰ』(東京書籍)			
評価	評価法	作品提出(毎時)、作品仕上げ時振り返り感想、小テスト、作品に向かう態度で評価します。		
	評価観点の趣旨 a 知識・技能	古典の技能を生かした基礎的な書法を身につける。 書法に基づき、作品を効果的、創造的に表現する。		
	評価観点の趣旨 b 思考・判断・表現	書の品格や美しさを感受し、意図に基づいて創造的に構想し、表現を工夫したり、書の伝統と文化の意味や歴史に基づいた表現の美を書の美を深く捉えている。		
	評価観点の趣旨 c 主体的に学習に取り組む態度	書と向き合い、こだわりを持って作品に向かえている。		
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A，B，Cの3段階)および評定(1～5の5段階)にまとめます。			

期	月	時数	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法 a	評価方法 b	評価方法 c
1学期	4	6	硬筆、ペン字	＊ 正しい姿勢と鉛筆、ペンの持ち方で線を引くことができる。 ＊ 漢字、平仮名の特徴を知り筆脈の通った文字を書くことができる。 ＊ 指の機能を知り、線のそりを表現できる。	作品 小テスト	作品	作品 行動観察
	5	8	硬筆、ペン字 楷書の学習 『九成宮醴泉銘』 『孔子廟堂碑』	＊ 漢字と仮名の調和した作品を書くことができる。 唐の四大家の臨書 ＊ 用具の使い方、後始末の仕方ができる。 ＊ 楷書の用筆法ができる。 ＊ 直筆法の線の動きができる。 ＊ 唐の時代と文化、唐の四大家を理解できる。	作品 小テスト	作品	作品 行動観察
	中間考査実施予定なし				作品	作品	作品 行動観察
	6	6	『雁塔聖教序』	＊ 俯仰法を使い線を引くことができる。 ＊ 俯仰法の特徴を掴んで結体ができる。 ＊ 俯仰法の効果的な表現ができる。 ＊ 多字数を書いて鑑賞することにより、作品の印象変化を言語化できる。			
	7	6	『自書告身』	＊ 顔法を使い線を引くことができる。 ＊ 顔法の特徴を掴んで結体ができる。 ＊ 顔法の効果的な表現ができる。 ＊ 顔法作品の鑑賞を通して顔法の効果を考え、どの様な場面に使うと良いか文章化する。	作品	作品	作品 行動観察
	期末考査実施予定なし						
2学期	8	2	王羲之について	＊ 王羲之が何故書聖と言われるのか、日本に与えた影響をしらべる。	課題	課題	課題

	9	8	行書の学習 『蘭亭序』	＊ 行書の用筆法ができる。 ＊ 抑揚、筆脈を使い表現できる。 ＊ 効果的な表現を習得できる。 ＊ 蘭亭序を鑑賞し、唐の四大家がどの部分に影響されたのか考える。	作品	作品	作品 行動観察
	10	8	『風信帖』	＊ 王羲之、顔法、俯仰法が入った三筆の特徴をとらえ、表現できる。 ＊ 風信帖を鑑賞し、出した相手にどのような印象を与えたのか考える。	作品	作品	作品
	中間考査実施予定なし						
	11	8	隷書の学習 『曹全碑』 篆書の学習 『泰山刻石』 篆刻の学習	＊ 隷書の特徴を捉えて、逆筆、波磔を書くことができる。 ＊ 隷書の作品が書ける。 ＊ 最も古い書体、文字の成り立ち、歴史を知る。 ＊ 自分の名前を辞書で調べる。 ＊ 篆書で印稿を作り布字する。	作品 印稿	作品 印稿	作品 行動観察 印稿
	12	4		＊ 運刀し、印を仕上げる。 ＊ 道具を効果的に使うことができる。 ＊ 道具の用意、後始末ができる。	印提出	印提出	印提出
	期末考査実施予定なし						
3学期	1	6	書初め作品	＊ 日本の伝統文化を理解し、各々の作品作りができる。 ＊ 線による表現の広がりを考え、作品を作ることができる。 ＊ 生徒作品の相互鑑賞をし、言葉と作品の印象を話し合う。	作品	作品	作品
	2	6	仮名の学習 『蓬莱切』	＊ 字源と歴史を知る。 ＊ 小筆を使うことができる。 ＊ 単体と、連綿の用筆ができる。 ＊ 古典をかくことができる。	小テスト 作品	小テスト 作品	小テスト 作品
	学年末考査実施予定なし						
	3	2	漢字仮名交じりの作品	＊ 書の効用や表現を幅広く理解し、作品を書くことができる。	作品	作品	作品

担当者からのメッセージ（学習方法など）
授業においては、姿勢、呼吸、骨格の使い方など、用筆法だけでなくきちんと身体の使い方の基本を伝える。 基本を学ぶ中では、東洋芸術なので、西洋的価値観から一線を画す授業を目指す。

令和7年度　年間指導計画　　滋賀県立米原高等学校

科目名	英語コミュニケーションⅠ	学年	類型・コース	単位数
		1年	全員	3単位
学習の目標	英語学習の特質を踏まえ，聞くこと，読むこと，話すこと[やり取り]，話すこと[発表]，書くことの五つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して，「知識・技能」「思考・判断・表現」を一体的に育成するとともに，その過程を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を育成する。			
使用教材	教科書:『CREATIVE English Communication Ⅰ』(第一学習社) 副教材:『CREATIVE English Communication Ⅰ 予習・授業ノート』(第一学習社)			
評価	評価法	定期考査、小テスト(単語テスト、英作文テスト)、パフォーマンス課題(スピーチ発表、プレゼンテーション、ｽﾋﾟｰｷﾝｸﾞﾃｽﾄ)、言語活動に取り組む態度		
	評価観点の趣旨 a 知識・技能	外国語の音声や語彙，表現，文法，言語の働きなどの理解を深めるとともに，これらの知識を，聞くこと，読むこと，話すこと，書くことによる実際のコミュニケーションにおいて，目的や場面，状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。		
	評価観点の趣旨 b 思考・判断・表現	コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，日常的な話題や社会的な話題について，外国語で情報や考えなどの概要や要点，詳細，話し手や書き手の意図などを的確に理解したり，これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を身に付けている。		
	評価観点の趣旨 c 主体的に学習に取り組む態度	外国語の背景にある文化に対する理解を深め，聞き手，読み手，話し手，書き手に配慮しながら，主体的，自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けている。		
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A，B，Cの3段階)および評定(1～5の5段階)にまとめます。			

期	月	時数	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法 a	評価方法 b	評価方法 c
1学期	4	8	Lesson1 Achieving Your Dreams	*<題材内容とねらい> *夢の実現に関する大谷翔平選手のメッセージを的確に理解し，その内容を整理して伝えることができる。 *<文型・文法事項> *to-不定詞，動名詞について理解を深め，これらを適切に活用することができる。 *<五領域の知識・技能> *日本語と英語の語順の違いに注意して，英文を理解することができる。 *音声を聞き、英語の母音・子音に気を付けながら、本文を音読することができる。 *<場面・状況など> *ウェブサイトの情報の特徴を理解しようとしている。	パフォーマンス課題 中間考査	パフォーマンス課題 中間考査	パフォーマンス課題 振り返りノート
	5	10	Lesson 2 What Do You Eat for Lunch?	*<題材内容とねらい> *日本および世界の「弁当文化」について的確に理解し，その内容を整理して伝えることができる。 *整理した内容を活用して，コンテストに応募することを想定した弁当について説明することができる。	音読テスト パフォーマンス課題	パフォーマンス課題	音読テスト パフォーマンス課題

				＊＜文型･文法事項＞ ＊現在完了形，分詞の形容詞用法について理解を深め，これらを適切に活用することができる。 ＊＜五領域の知識･技能＞ ＊英語の母音や子音に加え、リズムやイントネーションに注意して，英文を音読することができる。 ＊＜場面･状況など＞ ＊Q&A サイトなどに投稿する場合の注意点を理解し，読み手に配慮して，わかりやすく投稿文を書こうとしている。 ＊聞き手に配慮して，コンテストに応募することを想定した弁当についてわかりやすく説明しようとしている。	中間考査	中間考査	振り返りノート
	中間考査				音読テスト		音読テスト
	6	12	Lesson 3 The Evolution of the Cellphone	＊＜題材内容とねらい＞ ＊携帯電話の発展について的確に理解し，その内容を整理して伝えることができる。 ＊整理した内容を活用して，未来の携帯電話を想像し，それについてプレゼンテーションをすることができる。 ＊＜文型･文法事項＞ ＊現在完了進行形，関係代名詞について理解を深め，これらを適切に活用することができる。 ＊＜五領域の知識･技能＞ ＊意味のまとまりに注意して，英文を理解することができる。 ＊＜場面･状況など＞ ＊効果的なプレゼンテーションにするための方法を理解し，聞き手に配慮して，わかりやすくプレゼンテーションをしようとしている。	パフォーマンス課題 期末考査	パフォーマンス課題 期末考査	パフォーマンス課題 振り返りノート
	7	8	Lesson 4 A Healthy Planet	＊＜題材内容とねらい＞ ＊絶滅危惧種の保護のあり方について的確に理解し，その内容を整理して伝えることができる。 ＊整理した内容を活用して，絶滅危惧種の保護を訴えるポスターを作り，それを説明することができる。 ＊＜文型･文法事項＞ ＊助動詞＋be＋過去分詞，It seems that …について理解を深め，これらを適切に活用することができる。 ＊＜五領域の知識･技能＞ ＊ディスコースマーカーに注意して，英文を理解することができる。 ＊＜場面･状況など＞ ＊ポスターの構成や作成方法を理解し，聞き手や読み手に配慮して，わかりやすくポスターを作成し，それを説明しようとしている。	音読テスト パフォーマンス課題 期末考査 パフォーマンス課題	音読テスト パフォーマンス課題 期末考査 パフォーマンス課題	音読テスト パフォーマンス課題 振り返りノート パフォーマンス課題
	期末考査				パフォーマンステスト(やりとり)夏休みについて	パフォーマンステスト(やりとり)夏休みについて	パフォーマンステスト(やりとり)夏休みについて
期 2 学	8	3	Lesson 4 A Healthy				

			Planet				
	9	13	Lesson 5 The Adventures of Curious George's Creators	＊＜題材内容とねらい＞ ＊『おさるのジョージ』の作者の人生について的確に理解し，その内容を整理して伝えることができる。 ＊整理した内容を活用して，好きなマンガ・アニメとその理由を説明することができる。 ＊＜文型・文法事項＞ ＊知覚動詞・使役動詞＋O＋C（＝原型不定詞），関係代名詞 what について理解を深め，これらを適切に活用することができる。 ＊＜五領域の知識・技能＞ ＊英語の音の変化に注意して，英文を理解することができる。 ＊＜場面・状況など＞ ＊聞き手や読み手に配慮して，わかりやす ＊好きなマンガ・アニメとその理由を説明しようとしている。	音読テスト パフォーマンス課題 中間考査	パフォーマンス課題 中間考査	音読テスト パフォーマンス課題 振り返りノート
	10	13	Lesson 6 Messages about Happiness from Jose Mujica	＊＜題材内容とねらい＞ ＊ホセ・ムヒカの幸福に関するメッセージを的確に理解し，その内容を整理して伝えることができる。 ＊整理した内容を活用して，幸福を感じるときについて説明することができる。 ＊＜文型・文法事項＞ ＊過去完了形・過去完了進行形，S＋V＋O（＋O）（＝疑問詞節）について理解を深め，これらを適切に活用することができる。 ＊＜五領域の知識・技能＞ ＊考えや意図をうまく伝えるための表現に注意して，英文を理解することができる。 ＊＜場面・状況など＞ ＊聞き手や読み手に配慮して，わかりやす ＊幸福を感じるときについて説明しようとしている。	音読テスト パフォーマンス課題 中間考査	パフォーマンス課題 中間考査	音読テスト パフォーマンス課題 振り返りノート
	中間考査						
	11	12	Lesson 7 To Stop Plastic Pollution	＊＜題材内容とねらい＞ ＊海洋プラスチック汚染について的確に理解し，その内容を整理して伝えることができる。 ＊整理した内容を活用して，世界的な環境問題の解決のためにできることについてパラグラフを書くことができる。 ＊＜文型・文法事項＞ ＊S＋V＋it＋C＋to-不定詞，関係副詞について理解を深め，これらを適切に活用することができる。 ＊＜五領域の知識・技能＞ ＊パラグラフの構造に注意して，英文を理解することができる。 ＊＜場面・状況など＞ ＊ブログなどの SNS の投稿文の特徴を理解しようとしている。	音読テスト パフォーマンス課題 期末考査	パフォーマンス課題 期末考査	音読テスト パフォーマンス課題 振り返りノート

	12	8	Lesson 8 Stories to Be Passed On	＊＜題材内容とねらい＞ ＊近藤紘子さんのストーリーを的確に理解し，その内容を整理して伝えることができる。 ＊＜文型・文法事項＞ ＊仮定法過去，仮定法過去完了について理解を深め，これらを適切に活用することができる。 ＊＜五領域の知識・技能＞ ＊キーワードや言いかえ表現に注意して，英文を理解することができる。 ＊＜場面・状況など＞ ＊ディスカッションにおける注意点を理解しようとしている。 ＊聞き手や読み手に配慮して，わかりやすく平和の定義について説明しようとしている。	音読テスト パフォーマンス課題 期末考査	パフォーマンス課題 期末考査	音読テスト パフォーマンス課題 振り返りノート
	期末考査						
3学期	1	8	Lesson 9 Will Human Beings and AI Go Hand in Hand?	＊＜題材内容とねらい＞ ＊将来の人間とAIのあるべき姿について的確に理解し，その内容を整理して伝えることができる。 ＊整理した内容を活用して，人間と AI が共存する将来について説明することができる。 ＊＜文型・文法事項＞ ＊分詞構文（現在分詞），関係詞の非制限用法について理解を深め，これらを適切に活用することができる。 ＊＜五領域の知識・技能＞ ＊事実や情報をわかりやすく伝えるための表現に注意して，英文を理解することができる。 ＊＜場面・状況など＞ ＊広告の構成を理解しようとしている。 ＊聞き手や読み手に配慮して，わかりやす ＊人間とAIが共存する将来について説明しようとしている。	音読テスト パフォーマンス課題 プレ学年末考査 パフォーマンス課題	音読テスト パフォーマンス課題 プレ学年末考査 パフォーマンス課題	音読テスト パフォーマンス課題 振り返りノート パフォーマンス課題
	2	6	Optional Lesson The Safe	＊＜題材内容とねらい＞ ＊ストーリーの展開を的確に理解し，その内容を整理して伝えることができる。 ＊整理した内容を活用して，ストーリーに関連する自分の考えを話すことができる。	学年末考査 パフォーマンス課題	学年末考査 パフォーマンス課題	振り返りノート パフォーマンス課題
	学年末考査						
	3	4	1 年間の振り返り	＊年間を通じて取り組んだ振り返りノートを読み返し、最も印象に残った Lesson と、そこから何を学んだかをスピーチにして発表する。			

担当者からのメッセージ（学習方法など）
＊ 教科書の本文を使って、「聞く・読む・話す・書く」をどんどんやりましょう。 ＊ 辞書をよく読むことが英語理解を助けます。自主的に辞書を活用しましょう。 ＊ 小テストはいつも満点を目指して準備しましょう。コツコツ取り組めば自然に力が付きます。 ＊ 語学はやる気と興味・関心が一番のカギです。楽しみながら、継続的に毎日取り組みましょう。

令和7年度　年間指導計画　　滋賀県立米原高等学校

科目名	論理・表現Ⅰ	学年	類型・コース	単位数
		1年	全員	2単位
学習の目標	「話すこと（やりとり）」「話すこと（発表）」「書くこと」を中心とした統合的な言語活動を通して、コミュニケーションを図るために必要な発信能力を育成するとともに、論理の構成や展開を考察することで、情報や考えなどを論理的に工夫しながら伝える能力を養う。			
使用教材	教科書:『Vision Quest English Logic and Expression Ⅰ』(啓林館) 副教材:『Vision Quest New English Grammar』(啓林館) 『Vision Quest New English Grammar WORKBOOK』(啓林館) 『Vision Quest 総合英語 Ultimate 2nd Edition』(啓林館)			

評価				
	評価法	定期考査、小テスト、課題、パフォーマンス課題、振り返りシート		
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	・外国語の学習を通じて、言語の働きや役割などを理解し、外国語の音声、語彙・表現、文法の知識を身に付けている。 ・外国語の音声、語彙・表現、文法を 4 技能(聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと)において実際のコミュニケーションの場面で運用できる技能を身に付けている。
		b	思考・判断・表現	・場面・目的・状況等に応じて、幅広い話題について、情報や考えなどの概要・詳細・意図を外国語で的確に理解したり適切に表現したりしている。 ・外国語で聞いたり、読んだりしたことなどを活用して、場面・目的・状況等に応じて、幅広い話題について外国語を話したり書いたりして、情報や考えなどの概要・詳細・意図を適切に伝えあっている。
		c	主体的に学習に取り組む態度	・外国語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。 ・外国語の学習を通じて、言語やその背景にある文化を尊重し、自律的・主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。 ・他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, Cの 3 段階)及び評定(1～5の 5 段階)にまとめます。			

期	月	学習項目・単元	学習内容（言語材料・単元の目標）	評価方法 a	評価方法 b	評価方法 c
1学期	4	Lesson 1 Assistant 1	文の種類 / 初対面で行われる会話や学校を紹介する表現を学ぶ 文と文をつなぐ	小テスト 定期考査	小テスト パフォーマンス課題 定期考査	パフォーマンス課題 課題への取り組み
	5	Lesson 2	文型と動詞 / 学校生活で行われる生徒同士のやり取りの表現を学ぶ			
		中間考査				
	5 6	Lesson 3 Assistant 2 Lesson 4	基本時制 / 旅行の計画や予定を尋ねたり伝えたりする表現を学ぶ 会話を組み立てる 完了形 / 趣味や関心のあることについて、経験を尋ねたり、伝えあったりする表現を学ぶ			
	7	Lesson 5 Assistant 3	助動詞 / 将来や進路について、自分の意見や考えを伝えたり、相手に尋ねたりする表現を学ぶ			

			パラグラフ			
	期末考査					
2学期	9	Lesson 6 Lesson 7 Assistant 4 Assistant 5	受動態 / 日常生活における生徒同士の自然な会話の流れを学ぶ 不定詞 / 友人同士の自然は会話のやり取りから、感情を表す様々な表現を学ぶ スピーチ プレゼンテーション	小テスト 定期考査	小テスト パフォーマンス課題 定期考査	パフォーマンス課題 課題への取り組み
	10	Lesson 8 Lesson 9 Assistant 6	動名詞 / スポーツについてについて発話される会話からチームに誘ったり、見学を進めたりする表現を学ぶ 分詞 / メディアを通じたコミュニケーションについて意見を述べたり、情報を加えて詳しく説明する会話を学ぶ ディベート			
	中間考査					
	11 12	Lesson 10	関係詞 / 日本特有の言葉や文化、また異文化について紹介したり、その違いについて述べる会話表現を学ぶ			
	期末考査					
3学期	1 2	Lesson 11 Lesson 12	比較 / フェアトレードについて話される会話から、物事を提案したり、相手の発言を称賛する仕方を学ぶ 仮定法 / 日本の社会問題について話されるやり取りから、自分の意見や考えを伝えたり、相手の助言を求める会話を学ぶ	小テスト 定期考査	小テスト パフォーマンス課題 定期考査	パフォーマンス課題 課題への取り組み
	学年末考査					
	3	Assistant 7	ディスカッション			

担当者からのメッセージ(学習方法など)
論理・表現Ⅰは、表現などを用いた活動が中心の授業です。学んだ表現を用いて、積極的に表現活動に取り組みましょう。英語を話したり、書いたりするためには、基本的な表現を学び、身につけていくことが大切です。予習、復習を丁寧に行い、提出物にも計画的に取り組みましょう。この教科では、文法の基礎知識をしっかりと身につけ、自ら考えて発信していく力をつけていきます。

科目名	実践コミュニケーションⅠ	学年	類型・コース	単位数
		1年	普通科英語コース	1単位
学習の目標	スピーチ、ディスカッション、ディベート等を通じて、英語で自分の意見を書いたり、話したりできる。また、資料を読んだり、相手の話す内容を聞いたりして、内容を理解し、相槌を打ったり、質問したりするなどの実践的コミュニケーションを図ることができる。			
使用教材	自作教材			

評価				
	評価法	定期考査、レシテーション、英作文課題、スピーキングテスト(暗記型と即興型)、言語活動に取り組む態度、振り返りシート		
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深め、知識を聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。
		b	思考・判断・表現	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。
		c	主体的に学習に取り組む態度	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)及び評定(1～5の5段階)にまとめます。			

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法 a	評価方法 b	評価方法 c
1学期	4	レシテーション	*発音記号・発音練習 *より伝わりやすい姿勢・発声・gesture・表情	英作文課題 スピーキングテスト 期末考査	英作文課題 スピーキングテスト 期末考査	英作文課題 スピーキングテスト 期末考査
	5					
	中間考査					
	6	会話練習	*基本的受け答えを含むコミュニケーション活動 *自分の経験や考えを英文にして、暗唱する活動			
	7	ディベート入門	*自分の意見を客観的なデータを伴って人に分かりやすく伝える方法			
	期末考査					
2学期	9	ディベート入門	*ノートテイキングの練習 *反駁(attack)の練習	パフォーマンス 英作文	パフォーマンス 英作文	パフォーマンス 英作文
	10		*ディベートの試合に向けた立論の書き方 *立論の読み方、質疑応答			
	中間考査					

	11	ディベート	*アタック、ディフェンスを含めたミニディベート	スピーキングテスト 期末考査	スピーキングテスト 期末考査	スピーキングテスト 期末考査
	12		*ミニディベートの試合			
	期末考査					
3学期	1	ディベート	*ディベートの試合	パフォーマンス 学年末考査	パフォーマンス 学年末考査	パフォーマンス 学年末考査
	2		*ディベートの試合			
	学年末考査					
	3	ディベート	*客観的なデータを伴って、人に分かりやすく、口頭で自分の意見を伝える方法を身につけたか振り返る。			

担当者からのメッセージ(学習方法など)
*実践コミュニケーションという名前の通り、主に言語活動行います。そのために、事前に話す準備をしたり、作文したり、書いた英文を覚えてきたりします。また、身の回りに様々な事柄をテーマに話合ったりするので、どんなことにでも興味・関心を持っていることが大切です。入学時の英会話の上手・下手に関係なく、好奇心を持ち、日々努力を継続することが大切な教科です。また、恥ずかしがらずに積極的に英語を使えば使うほど、英語が上達します。

科目名	家庭基礎	学年	類型・コース	単位数
		1年	全員	2単位

学習の目標	(1)人の一生と家族・家庭及び福祉，衣食住，消費生活・環境などについて，生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに，それらに係る技能を身に付けるようにする。 (2)家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し，解決策を構想し，実践を評価・改善し，考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど，生涯を見通して課題を解決する力を養う。 (3)様々な人々と協働し，よりよい社会の構築に向けて，地域社会に参画しようとするとともに，自分や家庭，地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。			
使用教材	教科書:『家庭基礎　自立・共生・創造』(東京書籍) 副教材:『生活学 Navi　資料＋成分表』(実教出版)			
評価	評価法	定期考査、各単元における技能、作品、学習ﾉｰﾄ、プリント(ワークシート)、実験・実習レポート、振り返りシート、グループワーク、行動観察(授業内での仲間との関わり方やその各単元に対する主体性)を評価します。		
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え，家族・家庭の意義，家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め，生活を主体的に営むために必要な家族・家庭，衣食住，消費や環境などについて理解しているとともに，それらに係る技能を身に付けている。
		b	思考・判断・表現	生涯を見通して，家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し，解決策を構想し，実践を評価・改善し，考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。
		c	主体的に学習に取り組む態度	様々な人々と協働し，よりよい社会の構築に向けて，課題の解決に主体的に取り組んだり，振り返って改善したりして，地域社会に参画しようとするとともに，自分や家庭，地域の生活を創造し，実践しようとしている。
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A，B，Cの３段階)及び評定(1～5の５段階)にまとめます。			

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法 a	評価方法 b	評価方法 c
1学期	4	家庭科の学び方 (・言語活動の充実) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動 家庭科の学び方 生活に生かそう・自分の意見を文章にまとめよう 第１章 生涯を見通す １人生を展望する ２目標を持って生きる	＊ホームプロジェクト及び学校家庭クラブ活動の意義と実施方法について理解している。 ＊様々な人々と協働し，よりよい社会の構築に向けて，ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動について，課題の解決に主体的に取り組んだり，振り返って改善したりして，生活を工夫し創造し，実践しようとしている。 ＊人の一生について，自己と他者，社会との関わりから様々な生き方があることについて理解している。 ＊自立した生活を営むために必要な情報の収集・整理について理解しているとともに，適切にできる。 ＊生涯を見通して，生活課題に対応し意思決定をしていくことの重要性について理解している。 ＊生涯を見通した自己の生活について、ライフスタイルと将来の家庭生活及び職業生活や、生活設計について問題を見いだして課題を考えることができる。 ＊生涯の生活設計について，課題の解決に主体的に取り組んだり，振り返って改善したりして，生活を工夫し創造し，実践しようとしている。	ﾜｰｸｼｰﾄ 期末考査 学習ﾉｰﾄ ﾜｰｸｼｰﾄ	ﾜｰｸｼｰﾄ 期末考査 学習ﾉｰﾄ ﾜｰｸｼｰﾄ レポート 課題	行動観察 行動観察 振り返りシート レポート課題

		第２章 人生をつくる 1 人生をつくる	＊生涯発達の視点で青年期の課題について理解している。	期末考査 学習ﾉｰﾄ ﾜｰｸｼｰﾄ	期末考査 学習ﾉｰﾄ ﾜｰｸｼｰﾄ	行動観察 振り返り シート
	5	2 家族･家庭を見つめる 3 これからの家庭生活と社会 第３章 子どもと共に育つ 1 命を育む 2 子どもの育つ力を知る	＊家族･家庭の機能と家族関係について理解している。 ＊男女が協力して，家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について問題を見いだして課題を設定できる。 ＊家族･家庭生活を取り巻く社会環境の変化や課題について理解している。 ＊家族･家庭と社会との関わりについて理解している。 ＊家庭や地域のよりよい生活を創造するために，自己の意思決定に基づき，責任をもって行動することを考えることができる。 ＊様々な人々と協働し，よりよい社会の構築に向けて，青年期の自立と家族･家庭について，課題の解決に主体的に取り組んだり，振り返って改善したりして，生活を工夫し創造し，実践しようとしている。 ＊子供を生み育てることの意義について理解し、問題を見いだして課題を設定できる。 ＊乳幼児期の心身の発達と生活について理解している。	期末考査 学習ﾉｰﾄ ﾜｰｸｼｰﾄ	期末考査 学習ﾉｰﾄ ﾜｰｸｼｰﾄ	行動観察 振り返り シート
	6	3 子どもと関わる 4 子どもとの触れ合いから学ぶ 5 これからの保育環境 第４章 超高齢社会を共に生きる 1 超高齢･大衆長寿社会の到来	＊親の役割と保育について理解している ＊子供の健やかな発達のために親や家族の果たす役割の重要性について問題を見いだすことができ、解決策を考えることができる。 ＊乳幼児と適切に関わるための基礎的な技能について理解しているとともに，適切にできる。 ＊子供を取り巻く社会環境について理解している。 ＊子育て支援について理解している。 ＊子供の健やかな発達のために地域や社会の果たす役割の重要性について問題を考えることができ、解決策を考えることができる。 ＊様々な人々と協働し，よりよい社会の構築に向けて，子供の生活と保育について，課題の解決に主体的に取り組んだり，振り返って改善したりして，生活を工夫し創造し，実践しようとしている。 ＊高齢者を取り巻く社会環境について理解している。	期末考査 学習ﾉｰﾄ ﾜｰｸｼｰﾄ 中間考査 学習ﾉｰﾄ ﾜｰｸｼｰﾄ	期末考査 学習ﾉｰﾄ ﾜｰｸｼｰﾄ 中間考査 学習ﾉｰﾄ ﾜｰｸｼｰﾄ	行動観察 振り返り シート 行動観察 振り返り シート
	7	2 高齢者の心身の特徴 3 これからの超高齢社会	＊高齢期の心身の特徴について理解している。 【調理実習】 減塩料理 ＊高齢者の尊厳と自立生活の支援や介護について理解している。 ＊生活支援に関する基礎的な技能について理解しているとともに，適切にできる。 ＊高齢者の自立生活を支えるために，家族や地域及び社会の果たす役割の重要性について問題を見いだして課題を設定し，解決策を考えることができる。 ＊様々な人々と協働し，よりよい社会の構築に向けて，高齢期の生活と福祉について，課題の解決に主体的に取り組んだり，振り返って改善したりして，生活を工夫し創造し，実践しようとしている。	実習 レポート	実習 レポート	実習 レポート 行動観察
		期末考査				
2学期	9	ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	（夏休みを利用してホームプロジェクト実施） ＊自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の課題について問題を見いだして課題を設定し，解決策を構想し，実践を評価･改善し，考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する		レポート 課題 発表	レポート 課題 発表

	9	第５章 共に生き，共に支える 1 私たちの生活と福祉 2 社会保障の考え方 3 共に生きる	力を身に付けている。 ＊様々な人々と協働し，よりよい社会の構築に向けて，ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動について，課題の解決に主体的に取り組んだり，振り返って改善したりして，生活を工夫し創造し，実践しようとしている。 ＊生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解している ＊家庭や地域及び社会の一員としての自覚をもって共に支え合って生活することの重要性について考えることができる。 ＊共生社会と福祉について，課題の解決に主体的に取り組んだり，振り返って改善したりして，生活を工夫し創造し，実践しようとしている。	中間考査 学習ﾉｰﾄ ﾜｰｸｼｰﾄ	中間考査 学習ﾉｰﾄ ﾜｰｸｼｰﾄ	行動観察 振り返り シート
		第6章 食生活をつくる 1 食生活の課題について考える 2 食事と栄養・食品	＊ライフステージに応じた栄養の特徴について理解している。 ＊食品の栄養的特質について理解している。 ＊食品の調理上の性質について理解している。 ＊食品の調理上の性質について問題より課題を解決することができる。	期末考査 学習ﾉｰﾄ ﾜｰｸｼｰﾄ	期末考査 学習ﾉｰﾄ ﾜｰｸｼｰﾄ	行動観察 振り返り シート
	10	3 食生活の選択と安全 4 生涯の健康を見通した食事計画	＊健康や環境に配慮した食生活について理解している。 ＊食品衛生について理解している。 ＊自己や家族の食生活の計画・管理に必要な技能について理解しているとともに，適切にできる。 ＊食の安全や、・自己や家族の食事について問題を見いだして課題を設定し，解決策を考えることができる。 ＊よりよい社会の構築に向けて，食生活と健康について，課題の解決に主体的に取り組んだり，振り返って改善したりして，生活を工夫し創造し，実践しようとしている。 ＊おいしさの構成要素について理解している。		グループワーク （討議）	グループワーク 行動観察
	中間考査					
	11	5 調理の基礎 6 食生活の文化と知恵 7 これからの食生活	【調理実習】＊目的に応じた調理に必要な技能について理解しているとともに，調理の安全や衛生を理解し適切にできる。 ＊調理献立に応じた学習のねらいを理解できる。 ＊食文化の継承を考慮した献立作成や調理計画について問題を見いだすことができる。 ＊健康や環境に配慮した食生活や、持続可能な社会を目指して主体的に行動できるよう、ライフスタイルについて問題を見いだして課題を設定し，解決策を考えることができる。	実習 レポート	実習 レポート	実習 レポート
		第7章 衣生活をつくる 1 被服の役割を考える	＊ライフステージや目的に応じた被服の機能と着装について理解している。 ＊被服の機能性や快適性、目的に応じた着装について考えることができる。	期末考査 学習ﾉｰﾄ ﾜｰｸｼｰﾄ	期末考査 学習ﾉｰﾄ ﾜｰｸｼｰﾄ	行動観察 振り返り シート
	12	2 被服を入手する 3 被服を管理する 4 衣生活の文化と知恵	＊被服材料，被服構成及び被服衛生について理解している。 ＊被服の計画・管理に必要な技能について理解しているとともに，適切にできる。 ＊安全で健康や環境に配慮した被服の管理について問題を見いだして課題を設定し，解決策を考えることができる。			
	期末考査					

	1 2	衣服製作の基礎	【被服実習】＊製作を通し、被服の計画・管理に必要な技能を身に付ける	実習作品	ﾜｰｸｼｰﾄ	行動観察 振り返りシート
3学期	1	衣服製作の基礎 5 これからの衣生活	【被服実習】＊基礎的な技能を習得し、作品を工夫し仕上げることができる ＊健康で快適な衣生活に必要な情報の収集・整理について理解しているとともに，適切にできる。 ＊持続可能な社会を目指して主体的に行動できるよう，ライフスタイルについて問題を見いだして課題を考えることができる。 ＊様々な人々と協働し，よりよい社会の構築に向けて，衣生活と健康について，課題の解決に主体的に取り組んだり，振り返って改善したりして，生活を工夫し創造し，実践しようとしている。	学年末考査 学習ﾉｰﾄ ﾜｰｸｼｰﾄ	学年末考査 学習ﾉｰﾄ ﾜｰｸｼｰﾄ	行動観察 振り返りシート
		第8章 住生活をつくる 1 住生活の変遷と住居の機能 2 安全で快適な住生活の計画 3 住生活の文化と知恵	＊ライフステージに応じた住生活の特徴について理解している。 ＊防災などの安全や環境に配慮した住居の機能について理解している。 ＊適切な住居の計画・管理に必要な技能について理解しているとともに，適切にできる。 ＊住居の機能性や快適性、防災などの安全に配慮した住生活や住環境について問題を見いだして課題を設定し，解決策を考えることができる。	学年末考査 学習ﾉｰﾄ ﾜｰｸｼｰﾄ	学年末考査 学習ﾉｰﾄ ﾜｰｸｼｰﾄ	行動観察 振り返りシート
	2	4 これからの住生活 第9章 経済生活を営む 1 情報の収集・比較と意思決定 2 購入・支払いのルールと方法 3 消費者の権利と責任 4 生涯の経済生活を見通す 5 これからの経済生活	＊住居と地域社会との関わりや持続可能な社会を目指して主体的に行動できるよう、ライフスタイルについて問題を考えることができる。 ＊消費生活の現状と課題について理解している。 ＊消費行動における意思決定について理解している。 ＊生活情報を適切に収集・整理できることについて理解しているとともに，適切にできる。 ＊自立した消費者として，生活情報を活用し，適切な意思決定に基づいて行動することについて考えることができる。 ＊契約の重要性について理解している。 ＊消費者保護の仕組みについて理解している。 ＊消費者の権利と責任を自覚して行動することについて理解しているとともに，適切にできる。 ＊家計の構造について理解している。 ＊家計管理について理解している。 ＊ライフステージや社会保障制度などと関連付けて，生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について考えることができ、生活における経済と社会との関わりについて理解している。 ＊様々な人々と協働し，よりよい社会の構築に向けて，生活における経済の計画や，消費行動と意思決定について、課題の解決に主体的に取り組んだり，振り返って改善したりして，生活を工夫し創造し，実践しようとしている	学年末考査 学習ﾉｰﾄ ﾜｰｸｼｰﾄ	学年末考査 学習ﾉｰﾄ ﾜｰｸｼｰﾄ グループワーク（討議）	行動観察 振り返りシート グループワーク 行動観察
	学年末考査			学習ﾉｰﾄ ﾜｰｸｼｰﾄ	学習ﾉｰﾄ ﾜｰｸｼｰﾄ	行動観察 振り返りシート
	3	第 10 章 持続可能な生活を営む 1 持続可能な社会を目指して	＊生活と環境との関わりについて理解している。 ＊持続可能な消費について理解している。 ＊持続可能な社会へ参画することの意義について理解している。 ＊安全で安心な生活と消費や、持続可能な社会を目指して主体的に行動できるよう、ライフスタイルについて問題を見いだして課題を設定することができる。 ＊持続可能なライフスタイルと環境について，課題の解決に主体的に取り組んだり，振り返って改善したりして，生活を工夫し創造し，実践しようとしている。			
		第 11 章 これからの生活を創	＊人の一生について，自己と他者，社会との関わりから	学習ﾉｰﾄ ﾜｰｸｼｰﾄ	学習ﾉｰﾄ ﾜｰｸｼｰﾄ	

		造する 1 生活をデザインする	様々な生き方があることについて理解している。 ＊自立した生活を営むために必要な情報の収集・整理について理解しているとともに，適切にできる。 ＊生涯を見通して，生活課題に対応し意思決定をしていくことの重要性について理解している。 ＊生涯の生活設計について，課題の解決に主体的に取り組んだり，振り返って改善したりして，生活を工夫し創造し，実践しようとしている。			

担当者からのメッセージ（学習方法など）
教科書、資料集、学習ノート、プリントを用いての授業形態です。単元ごとに目標を持って学習を進めていき、人の一生、生活全般に関する基礎的・基本的な知識を身につけていきます。主体的・協働的な学習を衣食住、消費生活の各分野で体系的に学習し、生涯を見通した自己実現に対応するための能力を培うことを目指していきましょう。

<table>
<tr><td rowspan="2">科目名</td><td rowspan="2" colspan="3">理数数学Ⅰ-α</td><td>学年</td><td>類型・コース</td><td>単位数</td></tr>
<tr><td>1年</td><td>理数科</td><td>3単位</td></tr>
<tr><td>学習の目標</td><td colspan="6">数と式，2次関数，データの分析及び指数関数・対数関数について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。</td></tr>
<tr><td>使用教材</td><td colspan="6">教科書:『新編 数学Ⅰ』（数研出版）、『新編 数学Ⅱ』（数研出版）
『新編 数学 A』（数研出版）
副教材:『新課程 チャート式 基礎からの 数学Ⅰ＋A』（数研出版）
『新課程 チャート式 基礎からの 数学Ⅱ＋B＋C』（数研出版）
『新課程 4プロセス数学Ⅰ＋A』（数研出版）
『新課程 4プロセス数学Ⅱ＋B＋C』（数研出版）</td></tr>
<tr><td rowspan="5">評価</td><td>評価法</td><td colspan="5">定期考査、小テスト、課題考査、ノート、プリント、課題（宿題）で評価します。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">評価観点の趣旨</td><td>a</td><td>知識・技能</td><td colspan="3">・数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。
・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。</td></tr>
<tr><td>b</td><td>思考・判断・表現</td><td colspan="3">数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。</td></tr>
<tr><td>c</td><td>主体的に学習に取り組む態度</td><td colspan="3">・数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。
・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしたりしている。</td></tr>
<tr><td colspan="5">上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価（A，B，C の 3 段階）及び評定（1～5の 5 段階）にまとめます。</td></tr>
</table>

期	月	学習項目・単元	学習内容 （言語材料・単元の目標）	評価方法		
				a	b	c
1学期	4	〈数学Ⅰ〉 第1章 数と式 第1節 式の計算	整式の加法と減法 ＊ある文字に着目して整式の同類項をまとめ，整理することができる。 ＊整式の加法，減法の計算ができる。 整式の乗法 ＊展開の公式を利用することができる。 ＊式の特徴に着目して変形したり，式を1つの文字におき換えたりすることによって，式の計算を簡略化することができる。 因数分解 ＊因数分解の公式を利用することができる。 ＊因数分解を行うのに，文字のおき換えを利用することができる。 ＊整式を適切な形に整理することによって因数分解や計算ができる。	中間考査 小テスト	中間考査 課題 ノート	ノート プリント
	5	第2節 実 数	実 数 ＊有理数と無理数の違い，および実数について理解している。 ＊絶対値の意味と記号表示を理解している。			

			根号を含む式の計算 ＊平方根の意味･性質を理解している。 ＊根号を含む式の加法，減法，乗法の計算ができる。また，分母の有理化ができる。			
		第3節 1次不等式	不等式の性質 ＊不等式の性質を理解している。 1次不等式 ＊1次不等式を解くことができる。 ＊連立不等式の解を，数直線を用いて表示できる。 ＊連立不等式の意味を理解し，連立1次不等式を解くことができる。			
	中間考査			期末考査 小テスト	期末考査 課題 ノート	ノート プリント
	5	課題学習	絶対値を含む方程式･不等式 ＊絶対値の意味から，絶対値を含む方程式，不等式を解くことができる。 ＊第1章で学んだ内容に関する課題について，主体的に学習し，数学のよさを認識する。			
	6	第2章 集合と命題	集 合 ＊集合の特徴によって，要素を列挙する方法と要素の満たす条件を示す方法を使い分けて，集合を表すことができる。 ＊空集合，共通部分，和集合，補集合について理解している。 命題と条件 ＊命題の真偽，反例の意味を理解している。 ＊必要条件，十分条件，必要十分条件，同値の定義や使い方を理解している。 ＊条件の否定，ド･モルガンの法則を理解しており，条件の否定が求められる。 命題と証明 ＊対偶，背理法を理解し，命題を証明するのにこれらを適切に用いることができる。 ＊間接証明法を理解し，命題を証明することができる。			
		第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ	関数とグラフ ＊与えられた条件から1次関数を決定することができる。 ＊1次関数のグラフがかけて，値域，関数の最大値，最小値が求められる。 2次関数のグラフ ＊平方完成をすることができる。 ＊平方完成を利用して，2次関数 $y = ax^2 + bx + c$ のグラフの軸と頂点を調べ，グラフをかくことができる。 ＊放物線の平行移動を，頂点の移動に着目して考察することができる。グラフの対称移動の一般公式を活用して，対称移動後の放物線の方程式を求めることができる。			
		第2節 2次関数の値の変化	2次関数の最大･最小 ＊平方完成を利用して，最大値，最小値を求めることができる。 ＊2次関数の定義域に制限がある場合に，最大値，最小値が求めることができる。			

	7		2次関数の決定 ＊2次関数の決定において，条件を処理するのに適した式の形を使うことができる。 ＊与えられた条件から2次関数を決定することができる。			
	期末考査					
2学期	9	第3節　2次方程式と2次不等式 課題学習 第5章　データの分析	2次方程式 ＊2次方程式の解の考察において，判別式 $D = b^2 - 4ac$ の符号と実数解の関係を理解し，利用することができる。 ＊2次方程式が実数解や重解をもつための条件を式で示すことができる。 2次関数のグラフと x 軸の位置関係 ＊2次関数のグラフと x 軸の共有点の個数を求めることができる。 ＊2次関数のグラフと x 軸の共有点の個数や位置関係を，$D = b^2 - 4ac$ の符号から考察することができる。 2次不等式 ＊2次不等式、2次の連立不等式を解くことができる。 ＊式を解きやすい形に変形してから，2次不等式を解くことができる。 ＊第3章で学んだ内容に関する課題について，主体的に学習し，数学のよさを認識する。 データの整理 ＊データを度数分布表に整理することができる。また，度数分布表をヒストグラムで表すことができる。 データの代表値 ＊平均値や中央値，最頻値の定義や意味を理解し，それらを求めることができる。 データの散らばりと四分位数 ＊四分位範囲の定義やその意味を理解し，それを求め，データの散らばりを比較することができる。 ＊箱ひげ図をかき，データの分布を比較することができる。	課題考査 中間考査 小テスト	課題考査 中間考査 課題 ノート	ノート プリント
	10	 課題学習 ＜数学Ⅱ＞ 第5章 指数関数と対数関数 第1節　指数関数	分散と標準偏差 ＊分散，標準偏差の定義とその意味を理解し，それらに関する公式を用いて，分散，標準偏差を求めることができる。 データの相関 ＊相関係数の定義とその意味を理解し，定義に従ってそれを求めることができる。 ＊相関係数は散布図の特徴を数値化したものであること，数値化して扱うことのよさを理解している。 ＊第5章で学んだ内容に関する課題について，主体的に学習し，数学のよさを認識する。 指数の拡張 ＊累乗根の定義を理解し，累乗根の計算ができる。 ＊指数法則が成り立つように，指数の範囲を正の整数から実数にまで拡張していることを理解している。 ＊累乗の計算や，指数法則を利用した計算をする			

			ことができる。また，累乗根を含む計算では，分数指数を利用して計算することができる。 指数関数 ＊指数関数のグラフの概形，特徴を理解している。 ＊指数関数の増減によって，大小関係や不等式・方程式を考察することができる。			
	中間考査					
	10	第2節　対数関数	対数関数 ＊対数関数のグラフの概形，特徴を理解している。 ＊底と 1 の大小に注意して，対数関数を含む不等式を解くことができる。 ＊対数関数の増減によって，大小関係や方程式・不等　式を考察することができる。 常用対数 ＊常用対数の定義を理解し，それに基づいて種々の値を求めることができる。 ＊常用対数を利用して，桁数の問題や小数首位問題などを解くことができる。 ＊n 桁の数，小数首位第 n 位の数を，不等式で表現することができる。	期末考査 小テスト	期末考査 課題 ノート	ノート プリント
		課題学習	＊第5章で学んだ内容に関する課題について，主体的に学習し，数学のよさを認識する。			
	11	＜数学 A＞ 第1章　場合の数と確率 第1節　場合の数	集合の要素の個数 ＊ベン図を利用することで，和集合や補集合の要素の個数を求めることができる。 場合の数 ＊樹形図を用いて，場合の数をもれなくかつ重複なく数えることができる。 ＊和の法則，積の法則の利用場面を理解し，事象に応じて使い分けて場合の数を求めることができる。 順列 ＊順列，円順列，重複順列の公式を理解し，利用することができる。 ＊条件が付く順列，円順列を，見方を変えたり別なもの　に対応させたりして処理することができる。 組合せ ＊組合せの総数を記号で表し，それを活用できる。また，組合せの公式を理解し，利用することができる。 ＊組合せの条件が付く場合に，条件の処理の仕方を理　解している。 ＊条件が付く組合せを，見方を変えたり別なものに対応させたりして処理することができる。 ＊同じものを含む順列の総数を求めることができる。			
		第2節 確　率	事象と確率 ＊確率の意味，試行や事象の定義を理解している。 ＊確率の定義を理解し，確率の求め方がわかる。 ＊不確定な事象を，同様に確からしいという概念をもとに，数量的に捉えることができる。 確率の基本性質 ＊確率の基本性質を理解し，和事象，余事象の確率の求め方がわかる。			

	12		独立な試行と確率 ＊独立な試行の確率を，具体的な例から直観的に考えることができる。 ＊反復試行の確率を，公式を用いて求めることができる。 条件付き確率 ＊既習の確率と条件付き確率の違いについて，図や表などを用いて考察することができる。 ＊条件付き確率や確率の乗法定理を用いて確率の計算ができる。 期待値 ＊期待値の定義を理解し，期待値を求めることができる。 ＊結果が不確実な状況下において，どの選択が有理かを判断する基準として，期待値の考えを用いて考察することができる。			
	期末考査					
3学期	1			課題考査	課題考査	
	2					
	学年末考査					
	3					

担当者からのメッセージ（学習方法など）
授業用ノート、4プロセスノートは分けてください。 毎日の復習が大切です。宿題と4プロセスの授業で習った問題を解きましょう。

令和7年度　年間指導計画　　滋賀県立米原高等学校

科目名	理数数学Ⅰ-β	学年	類型・コース	単位数
		1年	理数科	2単位
学習の目標	図形の性質，図形と計量，分数関数・無理関数について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，数学と人間の活動の関係について認識を深め，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。			
使用教材	教科書:『新編 数学Ⅰ』（数研出版）、『新編 数学 A』（数研出版） 『新編 数学Ⅲ』（数研出版） 副教材:『新課程 チャート式 基礎からの 数学Ⅰ＋A』（数研出版） 『新課程 4プロセス数学Ⅰ＋A』（数研出版）			

評価				
	評価法	定期考査、小テスト、課題考査、ノート、プリント、課題（宿題）で評価します。		
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	・数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・数学と人間の活動の関係について認識を深め，事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。
		b	思考・判断・表現	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。
		c	主体的に学習に取り組む態度	・数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしたりしている。
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価（A，B，C の 3 段階）及び評定（1～5の 5 段階）にまとめます。			

期	月	学習項目・単元	学習内容（言語材料・単元の目標）	評価方法 a	評価方法 b	評価方法 c
1学期	4	＜数学 A＞ 第2章 図形の性質 第1節 平面図形	三角形の辺の比 ＊定理を適切に利用して，線分の比や長さを求めることができる。 ＊図形の性質を証明するのに，既習事項を用いて論理的に考察することができる。 三角形の外心・内心・重心 ＊三角形の外心，内心，重心の定義，性質を理解している。 チェバの定理・メネラウスの定理 ＊チェバの定理，メネラウスの定理を，三角形に現れる線分比を求める問題に活用できる。	中間考査 小テスト	中間考査 課題 ノート	ノート プリント
	5		円に内接する四角形 ＊円の基本的な性質を理解している。 ＊円周角の定理と円周角の定理の逆を理解している。 ＊円に内接する四角形の性質について，論理的に考察することができる。			

	中間考査			期末考査 小テスト	期末考査 課題 ノート	ノート プリント
	5 6		円と直線 ＊円の接線と弦の作る角の性質や方べきの定理を利用して，線分の長さや角度を求めることができる。 ＊円と直線を動的にとらえて，それらの位置関係を考察することができる。 2つの円 ＊2つの円を動的にとらえて，それらの位置関係を考察することができる。 作図 ＊基本的な図形の性質から作図の方法を考察することができる。 ＊線分の内分点・外分点の作図や，積，商，平方根など様々な長さの線分の作図ができる。			
		第2節　空間図形	直線と平面 ＊空間における直線や平面が平行または垂直となるかどうかを，与えられた条件から考察することができる。 空間図形と多面体 ＊正多面体の特徴を理解し，それに基づいて面，頂点，辺の数を求めることができる。 ＊正多面体どうしの関係を利用して，正多面体の体積を求めることができる。			
	期末考査					
	7	＜数学Ⅰ＞ 第4章　図形と計量 第1節　三角比	三角比 ＊直角三角形において，正弦・余弦・正接が求められる。 ＊直角三角形の辺の長さを三角比で表す式を理解し，応用問題に利用できる。			
2学期	9		三角比の相互関係 ＊三角比の相互関係を利用して，1つの値から残りの値が求められる。 三角比の拡張 ＊拡張された三角比を，座標平面に図示して考察することができる。 ＊座標を用いた三角比の定義を理解し，三角比の値からθを求めることができる。	課題考査 中間考査 小テスト	課題考査 中間考査 課題 ノート	ノート プリント
		第2節　三角形への応用	正弦定理 ＊正弦定理の図形的意味を考察する。 ＊正弦定理を利用して，三角形の外接円の半径，辺の長さや角の大きさが求められる。 余弦定理 ＊余弦定理の図形的意味を考察する。 ＊余弦定理を利用して，三角形の辺の長さ，角の大きさが求められる。 正弦定理と余弦定理の応用 ＊余弦定理や正弦定理を用いて，三角形の残りの辺の長さや角の大きさを求めることができる。 ＊正弦定理を $a:b:c = \sin A:\sin B:\sin C$ として利用できる。			
	10		三角形の面積 ＊三角比を用いた三角形の面積公式を理解している。 ＊三角形の面積を，決定条件である2辺とその間			

			の角または3辺から求めることができる。 ＊3辺が与えられた三角形の内接円の半径を求めることができる。			
	中間考査					
	10		空間図形への応用 ＊正弦定理，余弦定理を空間図形の計量に応用できる。 ＊測量や空間図形への応用では，適当な三角形に着目して考察できる。 ＊第4章で学んだ内容に関する課題について，主体的に学習し，数学のよさを認識する。	期末考査 小テスト	期末考査 課題 ノート	ノート プリント
	11	＜数学Ⅲ＞ 第3章 第1節　分数関数 第2節　無理関数	分数関数 ＊分数関数の定義を理解し，グラフをかくことができる。 ＊分数関数を変形し，漸近線を求めてグラフをかくことができる。 ＊分数関数のグラフと直線について，共有点の座標の意味を考え，その求め方を考察しようとする。 ＊グラフを利用することで，分数不等式を解くことができる。 無理関数 ＊無理関数の定義を理解し，グラフをかくことができる。 ＊無理関数 $y=\sqrt{a(x-p)}$ の表記について，グラフの平行移動とともに理解し，考察することができる。 ＊無理関数 $y=\sqrt{ax+b}$ を $y=\sqrt{a(x-p)}$ の形に変形し，グラフをかくことができる。			
	12	 課題学習	＊連立方程式を解くことで，無理関数のグラフと直線の共有点の座標を求めることができる。 ＊グラフを利用することで，無理不等式を解くことができる。 ＊第3章で学んだ内容に関する課題について，主体的に学習し，数学のよさを認識する。			
	期末考査					
3学期	1			課題考査	課題考査	
	2					
	学年末考査					
	3					

担当者からのメッセージ（学習方法など）
授業用ノート、4プロセスノートは分けてください。 毎日の復習が大切です。宿題と4プロセスの授業で習った問題を解きましょう。

科目名	理数数学Ⅱ-α	学年	類型・コース	単位数
		1年	理数科	1単位
学習の目標	式と証明，複素数と方程式の考えについて理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに，それらを活用する態度を育てる。			
使用教材	教科書:『新編 数学Ⅱ』（数研出版） 副教材:『新課程 チャート式 基礎からの 数学Ⅱ＋B＋C』（数研出版） 『新課程 4プロセス数学Ⅱ＋B＋C』（数研出版）			

評価				
	評価法	定期考査、小テスト、ノート、プリント、課題（宿題）で評価します。		
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	・数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。
		b	思考・判断・表現	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。
		c	主体的に学習に取り組む態度	・数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしたりしている。
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価（A，B，Cの３段階）及び評定（1～5の５段階）にまとめます。			

期	月	学習項目・単元	学習内容（言語材料・単元の目標）	評価方法 a	評価方法 b	評価方法 c
1学期	4					
	5					
	中間考査					
	6					
	7					
	期末考査					
2学期	9					
	10					
	中間考査					
	11					
	12					
	期末考査					
3学期	1	〈数学Ⅱ〉 第1章　式と証明 第1節　式と計算	3次式の展開と因数分解 ＊3次式の展開・因数分解の公式を利用することができる。 ＊式の形に着目して変形し，3次式の因数分解の公式を適用する形にすることができる。	学年末考査	学年末考査	ノート

		第2節　等式・不等式の証明	二項定理 ＊二項定理を利用して，展開式やその項の係数を求めることができる。 ＊二項定理を等式の証明に活用することができる。 整式の割り算 ＊整式の割り算の計算方法を理解している。 ＊割り算で成り立つ等式を理解し，利用することができる。 分数式とその計算 ＊分数式を分数と同じように約分，通分して扱うことができる。 恒等式 ＊恒等式となるように，係数を決定することができる。 ＊分数式の恒等式の分母を払った等式が恒等式であることを利用できる。 等式の証明 ＊恒等式Ａ＝Ｂの証明を，適切な方法で行うことができる。 不等式の証明 ＊平方の大小関係を利用して，不等式を証明することができる。 ＊相加平均･相乗平均の大小関係を利用して，不等式を証明することができる。	小テスト	課題 ノート	プリント
	2	第2章　複素数と方程式 第1節　複素数と2次方程式の解 第2節　高次方程式	複素数とその計算 ＊複素数の四則計算ができる。 ＊負の数の平方根を理解している。 2次方程式の解 ＊2次方程式の解の公式を利用して，2次方程式を解くことができる。 ＊判別式を利用して，2次方程式の解を判別することができる。 解と係数の関係 ＊2次方程式の解を利用して，2次式を因数分解できる。 剰余の定理と因数定理 ＊剰余の定理を利用して，整式を1次式や2次式で割った余りを求めることができる。			
	学年末考査					
	3		高次方程式 ＊因数分解や因数定理を利用して，高次方程式を解くことができる。 ＊高次方程式の虚数解から，方程式の係数を決定することができる。			

担当者からのメッセージ（学習方法など）
理数数学Ⅰの学習が終了した後、理数数学Ⅱの学習に入ります。授業用ノート、4プロセス用ノートは分けてください。 毎日の復習が大切です。宿題と4プロセスの授業で習った問題を解きましょう。

科目名	理数数学Ⅱ-β	学年	類型・コース	単位数
		1年	理数科	1単位
学習の目標	三角関数の考えについて理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに，それらを活用する態度を育てる。			
使用教材	教科書:『新編 数学Ⅱ』（数研出版） 副教材:『新課程 チャート式 基礎からの 数学Ⅱ＋B＋C』（数研出版） 『新課程 4プロセス数学Ⅱ＋B＋C』（数研出版）			

評価				
	評価法	定期考査、小テスト、ノート、プリント、課題（宿題）で評価します。		
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	・数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。
		b	思考・判断・表現	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。
		c	主体的に学習に取り組む態度	・数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしたりしている。
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価（A，B，Cの３段階）及び評定（1～5の５段階）にまとめます。			

期	月	学習項目・単元	学習内容（言語材料・単元の目標）	評価方法 a	評価方法 b	評価方法 c
1学期	4					
	5					
	中間考査					
	6					
	7					
	期末考査					
2学期	9					
	10					
	中間考査					
	11					
	12					
	期末考査					
3学期	1	〈数学Ⅱ〉 第4章　三角関数 第1節　三角関数	角の拡張 ＊一般角を表す動径を図示したり，動径の表す角を $\propto +360° \times n$ と表したりすることができる。 ＊角度の表し方に度数法と弧度法があることを理解している。また，弧度法の定義を理解し，度数	学年末考査	学年末考査	ノート

			法と弧度法の換算をすることができる。 ＊扇形の弧の長さと面積の公式を理解している。 三角関数 ＊弧度法で表された角の三角関数の値を，三角関数の定義によって求めることができる。 ＊単位円周上の点の座標を，三角関数を用いて表すことができる。 ＊三角関数の相互関係を理解し，それらを利用して様々な値を求めたり，式変形をしたりすることができる。 三角関数のグラフ ＊いろいろな三角関数のグラフのかき方と周期の求め方を理解している。 三角関数の性質 ＊三角関数の性質とグラフの特徴を相互に理解している。 ＊$\theta + 2n\pi$ や $-\theta$ などの公式を理解し，それらを用いて三角関数の値を求めることができる。 三角関数を含む方程式,不等式 ＊三角関数を含む2次方程式の解き方を理解している。	小テスト	課題 ノート	プリント
	2	第2節　加法定理	加法定理 ＊加法定理を利用して，種々の三角関数の値を求めることができる。 ＊正接の加法定理を利用して，2直線のなす角を考えることができる。 加法定理の応用 ＊2倍角，半角の公式などを利用して，三角関数の値を求めたり，等式を証明したりすることができる。 ＊2倍角の公式を利用して，三角関数を含むやや複雑な方程式･不等式を解くことができる。 ＊三角関数の合成について理解している。 ＊x の関数 $y = a\sin x + b\cos x$ の式を適切に変形することで，関数の最大値･最小値を求めることができる。 ＊合成後の変数のとる値の範囲に注意して，$a\sin x + b\cos x = k$ の形の方程式を解くことができる。			
	学年末考査					
	3	まとめ	1年間のまとめ			

担当者からのメッセージ(学習方法など)
理数数学Ⅰの学習が終了した後、理数数学Ⅱの学習に入ります。授業用ノート、4プロセス用ノートは分けてください。 毎日の復習が大切です。宿題と4プロセスの授業で習った問題を解きましょう。

令和7年度　年間指導計画　　滋賀県立米原高等学校

科目名	理数物理	学年	類型・コース	単位数
		1年	理数科	2
学習の目標	物理的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しを持って観察、実験を行うことなどを通して、科学的に探究するために必要な資質・能力を身につける。			
使用教材	教科書:『物理基礎』(数研出版) 副教材:『新課程版セミナー物理基礎』(第一学習社)			
評価	評価法	定期考査、実験レポート、問題集への取り組み、発表の内容などで評価します。		
	評価観点の趣旨 a 知識・技能	知識の習得や知識の概念的な理解、実験操作の基本的な技術の習得ができている。		
	評価観点の趣旨 b 思考・判断・表現	習得した「知識・技能」を活用して、課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身に付けている。		
	評価観点の趣旨 c 主体的に学習に取り組む態度	知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、粘り強く学習に取り組んでいる。自ら学習を調整しようとしている。		
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, C の 3 段階)及び評定(1～5の 5 段階)にまとめます。			

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法 a	評価方法 b	評価方法 c
1学期	4	物理量の測定と扱い方 速度	＊ 物理量の表し方について理解する。 ＊ 等速直線運動の式、および x-t 図、v-t 図を理解する。 ＊ 物体の運動を表すには向きが必要であることと、速さと速度、移動距離と変位の違いを理解する平均の速度と瞬間の速度の違いを理解している。 ＊ 直線上の合成速度、相対速度の意味と求め方を理解している。 ＊ 速度の意味・表し方、またこれらはグラフ上でどのように示されるかを正しく理解し、説明することができる。	中間考査	中間考査	授業態度 発表内容 実習態度 (通年)
	5	加速度	＊ 加速度の定義や正負の意味を正しく理解している。 ＊ 等加速度直線運動を表す3つの式がどのようにして得られたかを理解し、その式やグラフを正しく運用・説明することができる。			
	中間考査					問題集取組
	6	落体の運動	＊ 実験により重力加速度を測定することができる。 ＊ 自由落下や鉛直投射において、与えられた時刻における高さや速度を与える式の運用ができる。 ＊ 自由落下や鉛直投射はいずれも等加速度直線運動の一種であることを理解している。水平投射は鉛直方向に自由落下、水平方向には等速直線運動していることを理解している。 ＊ 落下運動する物体のようすについて説明することができる。			
	7	力とそのはたらき 力のつりあい	＊ 重力、垂直抗力、摩擦力、糸が引く力、弾性力について理解できている。 ＊ 力の表し方を理解し、「1N」とはどのような力なのかを説明できる。 ＊ 力がベクトル量であることを認識し、力の合成や分解ができる。注目する物体にはたらく力が指摘でき、つ			

			りあいの式が立てられる。 ＊ 作用・反作用の2力と、つりあいの2力を区別して考え、説明することができる。 ＊ 3つの力がはたらいてつりあうときの力の関係を理解できている。			
	期末考査			期末考査	期末考査	問題集取組
2学期	9	運動の法則 摩擦を受ける運動	＊ 物体が力を受けるとき（あるいは受けないとき）、運動状態はどのようになるか、逆に物体の運動状態からどのような力がはたらいているかを指摘できる。 ＊ さまざまな運動をしている物体について、運動方程式を立てて考えることができる。 ＊ 注目する物体に摩擦力はどの向きに現れるか、また最大摩擦力の大きさは2物体間の面の状態を表す静止摩擦係数μと、垂直抗力 N との積で表されることを理解している。			実験レポート
	10	液体や気体から受ける力 仕事	＊ 圧力を求める式を理解している。水圧を求める式を理解し、水中にある物体が静止しているとき、物体にはたらく力のつりあいの式を立てることができる。 ＊ 水中にある物体にはどのような浮力がはたらくかを理解している。 ＊ 仕事、仕事率を計算して求めることができる。 ＊ 物体に対して力がはたらいていても、仕事が 0 のときもあり、それがどのようなときであるかを理解している。 ＊ 仕事の原理を理解している。			
	中間考査			中間考査	中間考査	問題集取組
	11	運動エネルギー 位置エネルギー 力学的エネルギーの保存	＊ 運動エネルギーを計算して求めることができる。 ＊ 運動エネルギーの変化量は、物体がされた仕事量に等しいことを理解している。 ＊ 重力による位置エネルギーを計算することができる。弾性力による位置エネルギーを計算することができる。 ＊ 物体が基準点まで移動するときに保存力がする仕事が位置エネルギーであることを理解している。 ＊ さまざまな物体の運動について、力学的エネルギー保存則を用いることができる。 ＊ 物体に保存力以外の力がはたらくとき、その仕事の量だけ物体の力学的エネルギーが変化することを理解している。 ＊ 力学的エネルギー保存則が成り立つための条件が整っているかどうかを判断できる。 ＊ 力学的エネルギー保存則を、実験で定量的に検証し、実験結果と理論とを比較して考察・説明できる。			実験レポート
	12	熱と物質の状態 熱と仕事	＊ 温度、熱運動、熱量、比熱、熱容量などを正しく理解し、説明することができる。 ＊ 熱量の保存について理解し、熱量保存の式を立てることができる。 ＊ 物質が、固体→液体、液体→気体になる際の熱のやりとりについて理解している。 ＊ 仕事と熱の関係や熱力学第一法則について理解している。 ＊ 熱機関と、熱機関の熱効率について理解している。 ＊ 仕事によって温度が上昇することを、実験によって確認できる。			
	期末考査			期末考査	期末考査	問題集取組

3学期	1	波と媒質の運動 波の伝わり方	＊ 波の発生原理や基本事項を理解し説明することができる。 ＊ 縦波と横波の違いを理解している。 ＊ 縦波を横波の形で表現できる。 ＊ 波の伝わるようすをグラフで表現することができる。 ＊ 定在波の生じるしくみを理解している。 ＊ ウェーブマシーンの実験・観察を通して、波の重ね合わせの原理や自由端・固定端での波の反射について理解している。	学年末考査	学年末考査	実験レポート 問題集取組
	2	音の性質 発音体の振動と共振・共鳴	＊ 日常生活での体験を通して，音の波としての性質を理解している。 ＊ 音の特徴づける 3 つの要素について説明できる。 ＊ うなりとはどのような現象であるかを説明できる。 ＊ 弦や気柱の振動と音の高さの関係について理解している。 ＊ 気柱共鳴装置を用い，気柱の共鳴音からおんさの振動数を求めることができ，理解できている。			
	学年末考査					
	3	エネルギーの移り変わり エネルギー資源と発電	*エネルギーにはどのような種類があるか，また，身近なさまざまな事象でどのようなエネルギー変換がなされているかを理解している。 *エネルギー資源にはどのようなものがあるか把握し，それらの長所と短所を理解している。 *再生可能エネルギーについて，枯渇性エネルギーとの違いを考え，説明できる。 *火力，原子力，水力，風力の発電の共通点について説明できる。			

担当者からのメッセージ（学習方法など）
自らの手で計算を行うことがなにより重要です。これを基礎として、現象を数式に落とし込み、式から現象を想像する能力が体得されます。そして、図を書く習慣を身につけて下さい。図を書くことで、与えられて状況を整理する能力が身につきます。図も式も、まずは手を動かして自分の手で書いてみてください。

令和7年度　年間指導計画　　滋賀県立米原高等学校

科目名	理数生物	学年	類型・コース	単位数
		1年	理数科	2単位
学習の目標	生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。			
使用教材	教科書:『生物基礎』(数研出版) 副教材:『新課程二訂版スクエア最新図説生物』(第一学習社) 『リードα生物基礎』(数研出版)			
評価	評価法	定期考査、実験・実習レポート、授業ノートなどで評価します。		
	評価観点の趣旨	a　知識・技能	知識の習得や知識の概念的な理解、実験操作の基本的な技術の習得ができている。	
		b　思考・判断・表現	習得した「知識・技能」を活用して、課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身に付けている。	
		c　主体的に学習に取り組む態度	知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、粘り強く学習に取り組んでいる、自ら学習を調整しようとしている。	
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A，B，Cの3段階)および評定(1～5の5段階)にまとめます。			

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法 a	評価方法 b	評価方法 c
1学期	4	序章　生物基礎を学ぶにあたって 第1章　生物の特徴 1.生物の多様性と共通性 2.エネルギーと代謝	＊　生物基礎で学習する内容の概要を把握する。 ＊　顕微鏡の使い方を習得できる。 ＊　生物は多様でありながら、共通性をもつことを理解できる。生物の持つ共通性と多様性は、生物の進化の結果であることを理解できる。 ＊　生命活動にはエネルギーが必要であることを理解できる。エネルギーは共通のATPの形で供給されることを理解できる。		レポート	レポート
	5	3.呼吸と光合成	＊　呼吸や光合成によってATPが供給されることを理解できる。生命活動は化学反応であり、酵素によって、生体内で必要な化学反応が進行することを理解できる。 ＊　高校周辺の生態系の観察(夏)			レポート 授業ノート
		中間考査		中間考査	中間考査	
	5	第4章　生物の多様性と生態系 1.植生と遷移	＊　植生の成り立ちや相観について理解する。植生が時間の経過とともに移り変わっていくことを理解できる。			
	6	2.植生の分布とバイオーム 3.生態系と生物の多様性	＊　世界各地には、多様なバイオームが成立していることを理解できる。気候条件によっては、遷移の結果として森林の他に草原や荒原にもなることを理解できる。 ＊　生態系の成り立ちを理解できる。生物どうしの関係が種多様性の維持に関わっていることを理解できる。			
		期末考査		期末考査	期末考査	授業ノート

	7		＊ ウニの発生観察 ＊ 高山の生態系の観察		レポート	レポート
2学期	9	第３章 ヒトの体内環境の維持 1.体内での情報伝達と調節 2.体内環境の維持のしくみ ３ 免疫の働き	＊ 体内での情報伝達が、からだの状態の調節に関係していることを理解できる。自律神経系と内分泌系による情報伝達によって、体の状態の調節が行われていることを理解できる。 ＊ ホルモンと自律神経の働きによって、体内環境が維持されることを理解できる。 ＊ ブタの血液の観察 ＊ からだに、異物を排除する防御機構が備わっていることを理解できる。免疫と病気の関係や医療に応用されていることについて理解できる。 ＊ 体内環境についての映像鑑賞		レポート	レポート
	10					授業ノート
	中間考査			中間考査	中間考査	
	10	第 2 章 遺伝子とそのはたらき 1. 遺伝情報とDNA	＊ DNA は 2 本のヌクレオチド鎖からなる二重らせん構造をしていることを理解できる。遺伝情報は DNA の塩基配列にあることを理解できる。			
	11	2.遺伝情報の複製と分配	＊ DNA が半保存的に複製されることを理解できる。細胞周期の進行に伴って DNA が正確に複製され 2 つの細胞に分配されることを理解できる。			
	12	3.遺伝情報の発現	＊ タンパク質のアミノ酸配列は、DNA の塩基配列によって決まることを理解できる。個体が構成している細胞は遺伝的に同一であるが、細胞の機能に応じて発現している遺伝子が異なることを理解できる。 ＊ DNA の抽出実験 ＊ アカムシのだ腺染色体観察		レポート	レポート 授業ノート
	期末考査			期末考査	期末考査	
3学期	1	3.遺伝情報の発現 第 4 章 生物の多様性と生態系	＊ バイオテクノロジーについて学ぶ。 ＊ 生態系が持つ復元力について理解できる。人間活動が生態系に及ぼす影響について理解できる。生態系の保全の重要性について理解できる。			
	2	4.生態系のバランスと保全	＊ 高校周辺の生態系の観察(冬)	学年末考査	学年末考査	授業ノート
	学年末考査					
	3	まとめ	1 年間のまとめ			

担当者からのメッセージ(学習方法など)
日々の授業においては、その日の内容を理解できるよう、授業中および家庭で教科書を読む。図説や問題集を利用しながら、復習をする。考査前には、再度問題集を解く。 実験や実習においては、目的を理解し、取り組み、「考察」を大切にしたレポートを必ず提出する。